

講義科目名称：英文講読Ⅱ

授業コード：2N015

英文科目名称：Advanced English (Reading) II

対象カリキュラム：25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
柴山森二郎			

授業形態	演習	担当者
授業計画	第1回 看護学論文の英語抄録を読み、用語と語法を学習する（1）。 第2回 看護学論文の英語抄録を読み、用語と語法を学習する（2）。 第3回 看護学論文の英語抄録を読み、用語と語法を学習する（3）。 第4回 看護学論文の英語抄録を読み、用語と語法を学習する（4）。 第5回 看護学論文の英語抄録を読み、用語と語法を学習する（5）。 第6回 英語看護学論文の抄録を読み、用語と語法を学習する（1）。 第7回 英語看護学論文の抄録を読み、用語と語法を学習する（2）。 第8回 英語看護学論文の抄録を読み、用語と語法を学習する（3）。 第9回 英語看護学論文の抄録を読み、用語と語法を学習する（4）。 第10回 英語看護学論文の抄録を読み、用語と語法を学習する（5）。 第11回 英語看護学論文の抄録を読み、用語と語法を学習する（6）。 第12回 看護学論文の英語抄録を書くための用語と語法を整理する（1）。 第13回 看護学論文の英語抄録を書くための用語と語法を整理する（2）。 第14回 看護学論文の英語抄録を書くための用語と語法を整理する（3）。 第15回 看護学論文の英語抄録を書くための用語と語法を整理する（4）。	柴山 柴山 柴山 柴山 柴山 柴山 柴山 柴山 柴山 柴山 柴山 柴山 柴山 柴山 柴山 柴山
科目の目的	1. 内外の看護学会誌の英語で書かれた抄録・論文を読む。2. 看護論文の英語の抄録を書くための用語と語法を学習する。	
到達目標	1. 看護系、特に自分の専門分野の英語論文またはその抄録を読むことに積極的に取り組むことができるようになる。2. 看護論文の抄録を英語で書く努力ができるようになる。	
関連科目	英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語基礎、英語表現、ステップアップ英語Ⅰ、ステップアップ英語Ⅱ	
成績評価方法・基準	授業中の作業（40%）、期末レポート（60%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	必要な学習は出来るだけ授業時間中に行えるように工夫をするが、復習または準備のために1時間程度の時間は必要になる。	
教科書・参考書	プリント配布	
オフィス・アワー	授業の前後、または予約時	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	授業はすべて共同作業で行う。積極的な参加を望む。	

講義科目名称：臨床解剖学

授業コード：2N033

英文科目名称：Clinical Anatomy

対象カリキュラム：25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
浅見知市郎			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 運動器系 骨格系の構造と疾患	浅見知市郎
	第2回 運動器系 筋系の構造と疾患	浅見知市郎
	第3回 循環器系 心臓、動脈、静脈、リンパ系の構造と疾患	浅見知市郎
	第4回 内臓系 内臓学総論、呼吸器系の構造と疾患、消化器系（口腔～食道）の構造と疾患	浅見知市郎
	第5回 内臓系 消化器系（胃～肛門・肝臓・胆嚢・膵臓）、泌尿器系、生殖器系の構造と疾患	浅見知市郎
	第6回 内分泌系 内分泌器官（下垂体・松果体・甲状腺・上皮小体・副腎・膵島）の構造と疾患	浅見知市郎
	第7回 神経系 中枢神経系（脳・脊髄）、末梢神経系（脳神経・脊髄神経）の構造と疾患	浅見知市郎
	第8回 神経系・感覚器系 自律神経系（交感神経・副交感神経）、感覚器系（視覚器、聴覚器、皮膚）の構造と疾患	浅見知市郎
科目の目的	1年次に学習した解剖学を復習し、各種疾患との関係を学習する。 【思考・判断】	
到達目標	各種疾患が解剖学的構造と、どのように関係しているか説明できる。	
関連科目	基礎看護学実習ⅠⅡ・成人看護学実習ⅠⅡ・老年看護学実習・小児看護学実習・母性看護学実習・精神看護学実習	
成績評価方法・基準	試験100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	Active Academyで事前配布するレジメを理解に努めながら通読すると、概ね1時間かかるはずである。	
教科書・参考書	教科書：使用しない 参考書：「入門人体解剖学」藤田恒夫（南江堂）	
オフィス・アワー	講義終了後に質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する（asami@paz.ac.jp）。	
国家試験出題基準	≪必修問題≫-Ⅲ-10-A-a, b, c, d, e, f, g, h, i, j, k, l	
履修条件・履修上の注意	Active Academyによるレジメの配付期間：講義の1週間前から1週間後まで。 各自印刷して持参するか、PCにダウンロードして持参するかは自由。	

講義科目名称：臨床生理学

授業コード：2N035

英文科目名称：Clinical Physiology

対象カリキュラム：25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
洞口 貴弘			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 生理学の基礎および神経と筋 生理学の基礎および神経と筋の基本的機能について再確認する	洞口 貴弘
	第2回 神経系 神経系の機能について再確認する	洞口 貴弘
	第3回 感覚、体温 感覚、体温の機能について再確認する	洞口 貴弘
	第4回 内分泌系 内分泌系の機能について再確認する	洞口 貴弘
	第5回 呼吸器系 呼吸器系の機能について再確認する	洞口 貴弘
	第6回 血液・循環系 血液・循環系の機能について再確認する	洞口 貴弘
	第7回 腎 腎の機能について再確認する	洞口 貴弘
	第8回 消化器系 消化器系の機能について再確認する	洞口 貴弘
科目の目的	人体の構造と機能について再確認し、臨床現場に応用できる力を身につける(ディプロマポリシー01「知識・理解」に相当)	
到達目標	人体各部の構造と機能について復習し、疾患時の機能低下の正しい理由を選択肢から選択できるようになる	
関連科目	生理学、解剖学、生化学	
成績評価方法・基準	期末試験(100%) 公欠以外の欠席は、原則最終成績から10点減点する	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	既に履修済みである、生理学の復習(約1時間)	
教科書・参考書	教科書：特に無し 参考書：「シンプル生理学」(南江堂) 「標準生理学」(医学書院) 「人体の正常構造と機能」(日本医事新報社) 他	
オフィス・アワー	講義実施日の18:00~19:00 他、随時	
国家試験出題基準	<<人体の構造と機能>>-II-1-A-a, b, c <<人体の構造と機能>>-II-1-B-a, b, c <<人体の構造と機能>>-II-2-A-a <<人体の構造と機能>>-II-2-B-a, b <<人体の構造と機能>>-II-3-C-a, b <<人体の構造と機能>>-II-4-A-a <<人体の構造と機能>>-II-4-B-a, b, c, d, e, f, h, i <<人体の構造と機能>>-II-4-C-a, b, c, d <<人体の構造と機能>>-II-5-A-a, b, c, d <<人体の構造と機能>>-II-5-B-a, b, c, d, f <<人体の構造と機能>>-II-5-C-a, b <<人体の構造と機能>>-II-5-D-a, b <<人体の構造と機能>>-II-5-E-a, b <<人体の構造と機能>>-II-5-F-a, b <<人体の構造と機能>>-II-5-G-b	
履修条件・履修上の注意	7.5コマ講義なので、3回の欠席で履修放棄となるので注意	

講義科目名称：臨床病理学

授業コード：2N038

英文科目名称：Clinical Pathology

対象カリキュラム：25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
尾林 徹	尾林 徹		

授業形態	講義と演習 全8回。各回ごとのテーマは、原則としてシラバス記載の順序に従って進める。		担当者
授業計画	第1回 循環器系 循環器系の主な疾病の成り立ちと回復の要点。 関連する過去問題の演習	尾林	
	第2回 血液・造血管系 血液・造血管系の主な疾病の成り立ちと回復の要点。 関連する過去問題の演習	尾林	
	第3回 呼吸器系 呼吸器系の主な疾病の成り立ちと回復の要点。 関連する過去問題の演習	尾林	
	第4回 消化器系 消化器系の主な疾病の成り立ちと回復の要点。 関連する過去問題の演習	尾林	
	第5回 腎・泌尿器・生殖器系 腎・泌尿器・生殖器系の主な疾病の成り立ちと回復の要点。 関連する過去問題の演習	尾林	
	第6回 内分泌系 内分泌系の主な疾病の成り立ちと回復の要点。 関連する過去問題の演習	尾林	
	第7回 脳・神経・筋肉系 脳・神経・筋肉系の主な疾病の成り立ちと回復の要点。 関連する過去問題の演習	尾林	
	第8回 その他 その他の疾病の成り立ちと回復の要点。 関連する過去問題の演習	尾林	
科目の目的	病理学（疾病の成り立ちと回復の促進）について要点を再確認し理解を深め、臨床的な問題に対処する力を高める。 関連する国家試験の過去問題を中心とした演習と解説による知識の総括をおこなう。 【知識・理解】		
到達目標	各領域の疾病の病態への理解を深め、看護の際に必要とされる臨床的な見通しを立てる事が出来る。		
関連科目	看護学の各基礎と専門科目。 生化学 薬理学 解剖学I II 生理学I II 病理学 成人看護学I II III		
成績評価方法・基準	過去の看護師国家試験に準じた問題形式で評価する（試験 100%）。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義時間の半分程度を復習にあてる。1コマあたり0.5時間以上を目安とする。		
教科書・参考書	参考書：「シンプル病理学」改訂第7版（南江堂） 「病理学」疾病のなりたちと回復の促進①（医学書院） 教科書：なし		
オフィス・アワー	講義日の前後（原則）、夕まで可		
国家試験出題基準	<<必修問題>>-III-11-B-abcd <<疾病の成り立ちと回復の促進>>-III-4-A-abcdefghijk, III-4-B-abc, III-4-C-abcd III-5-A-abcdef, III-6-A-abcdef, III-6-B-abcde, III-7-A-abcdIII-8-A-abc, III-8-B-abc, III-8-C-a III-9-A-abcdefg, III-9-B-abc, III-9-C-abcd, III-9-D-abcde III-10-A-abcdef, III-10-B-ab III-11-A-abcde, III-11-B-ab, III-11-C-a III-12-A-abcdefg, III-12-B-a III-13-A-abcd<<必修問題>>-III-11-B-abcd		
履修条件・履修上の注意			

講義科目名称：臨床薬理学

授業コード：2N041

英文科目名称：Clinical Pharmacology

対象カリキュラム：25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
栗田 昌裕			

授業形態	講義。	担当者
授業計画	第1回 薬理学の総論1。 薬理学の総論の基本概念を復習する（1回目）：用量と薬理作用、受容体と作用、薬物動態、薬物に影響を与える因子、など。	栗田昌裕
	第2回 薬理学の総論2。 薬理学の総論の基本概念を復習する（2回目）：ライフサイクルと薬物、薬物の働く仕組み、麻酔薬・睡眠薬の効く仕組み。薬物の相互作用、副作用・中毒、麻薬、毒薬、薬物の保管・管理、臨床検査、など。	栗田昌裕
	第3回 薬物治療の各論1：①炎症、②腫瘍。 ① 副腎皮質ステロイド、細菌感染症、真菌症、ウイルス感染症、消毒薬、ワクチン、自己免疫疾患の治療、など。② 悪性腫瘍の治療、抗がん剤、ホルモン治療、など。	栗田昌裕
	第4回 薬物治療の各論2：③代謝・内分泌疾患、④脳・神経疾患。 ③ 糖尿病、甲状腺機能異常症、脂質異常症、痛風、卵巣機能低下症、骨粗鬆症など。④ てんかん、頭痛、パーキンソン病、アルツハイマー病、脳血管障害など。	栗田昌裕
	第5回 薬物治療の各論3：⑤精神疾患、⑥血液疾患 ⑤ 認知症、統合失調症、躁うつ病、不安神経症、など。⑥ 貧血、血栓症など。	栗田昌裕
	第6回 薬物治療の各論4：⑦循環器疾患、⑧腎臓・泌尿器疾患。 ⑦ 高血圧、心不全、種々の不整脈、狭心症、など。⑧ 浮腫、蓄尿障害、排尿障害、前立腺肥大、など。	栗田昌裕
	第7回 薬物治療の各論5：⑨消化器疾患、⑩呼吸器疾患。 ⑨ 胃・十二指腸潰瘍、胆石症、胆道疾患治療薬、など。⑩ 慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、アレルギー、など。	栗田昌裕
	第8回 薬物治療の各論6 ⑪感覚器の疾患 ⑪ めまい、緑内障、皮膚疾患、など。	栗田昌裕
科目の目的	ディプロマ・ポリシーとの関連では、「知識・理解」の項目の「保険医療専門職としての基本的知識」を得ることを目的とする。具体的には、薬理学の知識を臨床実践に活用する考え方を学ぶ。主要な傷病に対する薬物療法について、臨床症状と薬効、薬物の分布・代謝・排泄の関係、副作用の機序について説明でき、状況に応じて患者の安全、安楽を保持しながら薬物療法の効果を高める看護を考える力を養う。	
到達目標	① 重要な疾患や重要な病態に対して、どのような薬物を用いるかが分かること。 ② 副作用や、相互作用、禁忌などの看護上で重要な知識を整理して明確に理解できること。	
関連科目	薬理学、成人看護学。	
成績評価方法・基準	典型的な過去の国家試験問題などによる試験（100％）。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習に関しては、特に必要はない。意欲的な人には教科書の該当する章を眺めて、問題意識を高めることが勧められる。また、毎回の講義に関して、1時間ほどの復習をすること。	
教科書・参考書	参考書：「疾病の成り立ちと回復の促進 薬理学」（医歯薬出版株式会社）。	
オフィス・アワー	講義実施日の12：10～13：00。	
国家試験出題基準	【看護師】 《疾病の成り立ちと回復の促進》-II-2-D-e 《疾病の成り立ちと回復の促進》-II-3-C-b 《疾病の成り立ちと回復の促進》-II-3-D-a~g 《必修問題-3》-III-12-Aa~l 《必修問題-3》-III-12-B~a~d	
履修条件・履修上の注意	Active Academyにより資料を事前配布します。配布期間は「授業前日から授業日まで」。持参方法は「各自印刷して授業に持参すること」。	

講義科目名称：基礎看護学特論

授業コード：2N067

英文科目名称：Advanced Fundamental Nursing

対象カリキュラム：25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
上星 浩子	堀込 由紀		

授業形態	講義（4回）、演習（4回）		担当者
授業計画	第1回	看護の現状と課題 基礎看護学・看護技術に関する現状と課題について学ぶ。	上星浩子
	第2回	看護の専門性（1） 看護倫理について学ぶ。 倫理的な分析と意思決定について学ぶ。	上星浩子
	第3回	看護の専門性（2） 実習等を振りかえり、ベッドサイドケアにおける倫理的ジレンマ・課題について討論する。	上星浩子
	第4回	看護の専門性（3） 看護技術（特に移送技術）における問題点や課題、解決策について学ぶ。 ノーリフトポリシーについて学び、考察を深める。	堀込由紀
	第5回	看護の専門性（4） ICT（Information&amp;amp;amp;amp; Communication Technology）技術と看護について学ぶ。	堀込由紀
	第6回	看護の課題と展望（1） 基礎看護学領域に関する課題について、文献をもとにグループで考察し、発表・討議する。	上星浩子
	第7回	看護の課題と展望（2） 基礎看護学領域に関する課題について、文献をもとにグループで考察し、発表・討議する。	上星浩子
	第8回	看護の課題と展望（3） 基礎看護学領域におけるトピックスについて討議する。（ディベート）	上星浩子
科目の目的	基礎看護学の視点から看護学の専門性、現状、展望について、先行研究や演習での自己の学びから考察する。 【関心・意欲】		
到達目標	1. 看護技術のエビデンスや倫理的課題について、文献等を用いて情報収集ができる。 2. 文献等で得られた情報に基づき、看護に関する課題と展望について説明できる。 3. 演習での学びに基づき、看護の専門性や展望について自己の考えを説明できる。		
関連科目	看護学概論Ⅰ・Ⅱ、看護援助学Ⅰ・Ⅱ、看護援助学演習Ⅰ・Ⅱ、看護過程論をはじめとする看護学全般の科目		
成績評価方法・基準	演習における発表・討議内容（50%）、課題レポート（50%）		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	担当となった課題に関するプレゼンテーション準備（文献検索、発表資料作成） 1コマあたり約120分の事前学習と復習が必要。		
教科書・参考書	特に指定しない 講義に必要な資料は当日配布する。		
オフィス・アワー	上星浩子：月曜・木曜日：12：10～12：50（上星研究室） 堀込由紀：授業の前後の時間		
国家試験出題基準	≪基礎看護学≫-Ⅰ-1-A～C、2-A～C、Ⅱ-3-A～G Ⅲ-6-A、D		
履修条件・履修上の注意			

講義科目名称：成人看護学特論

授業コード：2N075

英文科目名称：Advanced Adult Nursing

対象カリキュラム：25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
萩原 英子	堀越 政孝	金子 吉美	川尻洋美

授業形態	講義(8回)	担当者
授業計画	<p>第1回      がん患者のQOLと看護 がんサバイバーシップについて学習し、がんサバイバーへの看護支援について理解を深める。</p> <p>第2回      成人に対する健康教育支援 アンドラゴジー、自己効力、セルフマネジメント教育の概念を理解し、看護の課題を考える。</p> <p>第3回      看護の専門性 看護師という職業における専門性と、看護の専門分化について理解を深める。</p> <p>第4回      専門的な看護の実践1 専門的な知識を持って活動している看護師の実際を理解し、成人看護のあり方について考える。 &lt;guest speaker:糖尿病看護認定看護師&gt;</p> <p>第5回      専門的な看護の実践2 専門的な知識を持って活動している看護師の実際を理解し、成人看護のあり方について考える。 &lt;guest speaker:がん看護専門看護師&gt;</p> <p>第6回      専門的な看護の実践3 専門的な知識を持って活動している看護師の実際を理解し、成人看護のあり方について考える。</p> <p>第7回      専門的な看護の実践4 専門的な知識を持って活動している看護師の実際を理解し、成人看護のあり方について考える。 &lt;guest speaker:フライトナース&gt;</p> <p>第8回      成人期にある人に特徴的な健康問題 成人期にある人に特徴的な健康問題を取り上げ、理解を深めるとともに、看護のあり方及び課題について考える。</p>	<p>萩原英子</p> <p>金子吉美</p> <p>堀越政孝</p> <p>萩原英子</p> <p>萩原英子</p> <p>川尻洋美 (非常勤講師)</p> <p>萩原英子</p> <p>萩原英子、堀越政孝</p>
科目の目的	成人期にある人々の健康問題や患者のおかれている状況について理解を深め、看護支援のあり方と看護職の果たす役割、看護の課題について考察する。 (ディプロマ・ポリシー【関心・意欲】【思考・判断】【知識・理解】)	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人期にある人々の健康問題について説明できる</li> <li>2. 様々な健康問題を抱える患者に対する看護支援について、自己の考えを述べることができる</li> <li>3. 自己の看護師としての将来像をイメージし、キャリアプランを構築できる</li> </ol>	
関連科目	成人看護学総論、成人看護学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ、臨床看護管理学	
成績評価方法・基準	各回のコメントペーパー40%、レポート60%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習及び復習に必要な学習時間は30～60分である。準備学習として、それぞれの授業内容に関連したキーワードについて調べた上で講義に参加すること。また、各講義終了後には、教科書や講義中に配布された資料を見ながら、しっかり理解できたか確認すること。	
教科書・参考書	教科書：なし 参考書：講義内で適宜紹介する	
オフィス・アワー	萩原英子(研究室306)：講義開講日の12:10～13:00 堀越政孝(研究室324)：講義開講日の12:10～13:00 金子吉美(研究室307)：講義開講日の12:10～13:00 非常勤講師・ゲストスピーカー：担当講義終了後の10分間	
国家試験出題基準	<p>【看護師】</p> <p>《成人看護学》 Ⅱ-3-C, Ⅲ-6-B, D, Ⅳ-7-D, E, Ⅴ-8-D</p> <p>《看護の統合と実践》 Ⅰ-1-F-a, b, Ⅳ-4-B</p>	

履修条件・履修上の注意	非常勤講師及びゲストスピーカーの先生方に対し、礼節を忘れずに授業に臨むこと。 講義に必要な資料は、各講義の中で配布する。
-------------	---

講義科目名称：老年看護学特論

授業コード：2N080

英文科目名称：Advanced Gerontological Nursing

対象カリキュラム：25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
櫻井 清美			

授業形態	講義（1回）、演習（7回）	担当者
授業計画	第1回 コースガイダンス 高齢者と健康、老年看護学に求められる今日の課題 第2回 高齢者の健康段階と看護のかかわり 高齢者の健康段階と看護学的課題の提示 第3回 課題の提示と討議① 健康寿命とヘルスプロモーション 第4回 課題の提示と討議② 入院・手術を受ける高齢者とせん妄の問題 第5回 課題の提示と討議③ 高齢者の医療・ケアにおける身体拘束の問題 第6回 課題の提示と討議④ 高齢者虐待の問題 第7回 課題の提示と討議⑤ 高齢者の摂食障害と胃瘻の問題 第8回 まとめ 高齢者ケアにおける看護職の役割と責務	櫻井 清美  櫻井 清美  櫻井 清美  櫻井 清美  櫻井 清美  櫻井 清美  櫻井 清美  櫻井 清美
科目の目的	さまざまな健康段階にある高齢者に応じた看護学的課題の現状と問題解決のための方向性を幅広い視点から学習する。また課題についての文献学習・事例検討・討議をとおして、看護職が果たす役割と今後の課題を考察する。【関心・意欲】	
到達目標	1. 健康寿命の概念と高齢者におけるヘルスプロモーションのあり方について考えることができる。 2. 治療を受ける高齢者の早期回復のための支援のあり方について考えることができる。 3. 認知症高齢者と家族の支援のあり方について考えることができる。 4. 高齢者ケアにおける倫理的課題について考えることができる。	
関連科目	老年看護学総論、老年看護学Ⅰ、老年看護学Ⅱ、老年看護学演習、老年看護学実習	
成績評価方法・基準	演習における発表・討議内容(70%)、レポート(30%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	担当部分のプレゼンテーションを行うためにおおよそ2時間の準備、配付資料の作成に1時間の準備	
教科書・参考書	教科書：使用しない 参考書：随時紹介する	
オフィス・アワー	講義終了後	
国家試験出題基準	≪老年看護学≫Ⅱ-4-A, B, C 6-C, L, N	
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称：小児看護学特論

授業コード：2N085

英文科目名称：Advanced Pediatric Nursing

対象カリキュラム：25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
内山かおる			

授業形態	講義1回、演習7回	担当者
授業計画	<p>第1回 小児看護の現状 新聞、子ども関連書籍、厚生労働省のデータなどを用いて小児看護の現状と課題を検討する</p> <p>第2回 小児看護の問題についての討議① 1) 乳児期・幼児期の問題①－小児救急医療体制について 2) 乳児期・幼児期の問題②－睡眠問題について 3) 学童期の問題－食育について 4) 思春期の問題－不登校について 5) 障害児の問題－発達障害について</p> <p>第3回 小児看護の問題についての討議②</p> <p>第4回 小児看護の問題についての討議③</p> <p>第5回 小児看護の問題についての討議④</p> <p>第6回 課題発表① 1) 乳児期・幼児期の問題①－小児救急医療体制について 2) 乳児期・幼児期の問題②－睡眠問題について 3) 学童期の問題－食育について 4) 思春期の問題－不登校について 5) 障害児の問題－発達障害について</p> <p>第7回 課題発表②</p> <p>第8回 小児看護の役割 課題発表の内容などから小児看護の役割を検討する</p>	<p>内山かおる</p> <p>内山かおる</p> <p>内山かおる</p> <p>内山かおる</p> <p>内山かおる</p> <p>内山かおる</p> <p>内山かおる</p> <p>内山かおる</p>
科目の目的	<p>近年の小児保健や小児看護に関連するトピックスを取り上げ、その背景にある社会情勢や医療・保健・福祉の動向を理解し、今後の小児看護について展望することを目的とする。</p> <p>ディプロマポリシーとの関連 【関心・意欲】</p>	
到達目標	<p>1. 近年の子どもの健康問題について子どもの権利擁護について考察することができる。</p> <p>2. 子どもの未来のために看護師として果たしうる可能性について考察することができる。</p>	
関連科目	<p>小児看護学（小児看護学総論、小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱ、小児看護学Ⅲ、小児看護学実習）、母性看護学各科目、基礎看護学各科目、精神看護学各科目、公衆衛生学各科目、統合分野各科目、教養科目群（心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境学など）、専門基礎科目群（解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学ほか）、専門基礎地域科目群（公衆衛生学、保健統計、栄養学、歯科保健、健康管理論ほか）</p>	
成績評価方法・基準	<p>演習における発表・討議（50%）、レポート（50%）</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>課題に関するプレゼンテーションの準備を行う。 小児看護学総論、小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱ、小児看護学Ⅲを復習する。 1コマにつき、120分程度の準備時間を求めます。</p>	
教科書・参考書	<p>必要時提示する</p>	
オフィス・アワー	<p>金曜 16：40以降</p>	
国家試験出題基準	<p>—</p>	
履修条件・履修上の注意	<p>—</p>	

講義科目名称：母性看護学特論

授業コード：2N089

英文科目名称：Advanced Maternity Nursing

対象カリキュラム：25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
早川 有子			

授業形態	講義・演習（8回のうち講義1/2、演習1/2）	担当者
授業計画	<p>第1回 虐待・DVに関する最近の話題（講義・演習）</p> <p>第2回 母乳育児支援に関する最近の話題（職場環境含む）（講義・演習）</p> <p>第3回 母子感染症に関する最近の話題（講義・演習）</p> <p>第4回 妊娠・分娩・産褥に関する最近の話題（講義・演習）</p> <p>第5回 育児に関する最近の話題（講義・演習）</p> <p>第6回 不妊症に関する最近の話題 高度生殖医療に関する最近の話題（講義・演習）</p> <p>第7回 高齢と若年妊娠・分娩・産褥の最近の話題（講義・演習）</p> <p>第8回 環境と母子の健康問題に関する最近の話題（講義・演習）</p> <p>1-8について最近の論文・新聞を読み、さらに、身近な人を例に討議する。さらに、学生からの要望も講義の中に取り入れる。</p>	<p>早川</p> <p>早川</p> <p>早川</p> <p>早川</p> <p>早川</p> <p>早川</p> <p>早川</p> <p>早川</p> <p>早川</p>
科目の目的	最近の母性看護の話題から専門分野を探究し、今後の課題が考えられ、その発展に貢献する意欲を持つことができる 【関心・意欲】	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>母性看護に関する最近の話題を知る。</li> <li>母性看護に関する最近の話題から今後の課題が考えられる。</li> </ul>	
関連科目	専門科目群：母性看護学総論 母性看護学Ⅰ 母性看護学Ⅱ 小児看護学 公衆衛生看護学	
成績評価方法・基準	課題発表（20%） 課題提出（80%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習の内容：母性看護に関する既習の講義内容を復習し講義に臨むこと。 母性に関する最近の話題についての課題を持って講義に臨むこと。 準備学習時間の目安：3時間45分	
教科書・参考書	使用しない	
オフィス・アワー	講義開講日：講義前後 放課後	
国家試験出題基準	《母性看護学》Ⅰ-B 《母性看護学》Ⅱ-3-A Ⅱ-3-B 《母性看護学》Ⅲ-4-C Ⅲ-5-A.C.	
履修条件・履修上の注意	Active Academy により資料を事前に配布した時は、各自印刷して授業に持参すること。	

講義科目名称：精神看護学特論

授業コード：2N093

英文科目名称：Advanced Psychiatric Nursing

対象カリキュラム：25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
田村 文子			

授業形態	講義・演習	担当者
授業計画	第1回 オリエンテーション 本科目の目的・概要・講義予定の説明 第2回 今日の精神保健医療における課題1 今日の精神保健医療の現状 第3回 今日の精神保健医療における課題2 今日の精神保健医療における課題の検討 第4回 今日の精神保健医療における課題3 グループワーク及び発表 第5回 精神保健看護における理論1 精神力動論 第6回 精神保健看護における理論2 認知行動理論 第7回 精神保健看護での実践1 精神保健看護で行われている各種セラピー1 で実施する 第8回 精神保健看護での実践2 精神保健看護で行われている各種セラピー2 認知行動療法による変化を検討する	田村 文子 田村 文子 田村 文子 田村 文子 田村 文子 田村 文子 田村 文子 田村 文子
科目の目的	近年の精神保健看護の分野で重要な支援技法となっている認知行動療法について、基礎的知識及び基本的な技能を演習形式で理解し身に付け、精神保健看護における専門的な技術の習得を行う。以上より、ディプロマポリシーである知識・理解、思考・判断技能・表現、技能・表現、態度を身に付ける。	
到達目標	1. 精神保健看護分野における各種技法が理解できる。 2. 認知行動療法の基礎知識が理解できる。 3. 認知行動療法の基礎が実施できる。	
関連科目	心理学、発達心理学、臨床心理学、カウンセリング、精神看護学総論、精神看護学Ⅰ、精神看護学Ⅱ、精神看護学実習	
成績評価方法・基準	演習における課題レポート（50%）、認知行動療法に関する実施（50%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習：各講義日の講義内容に関連する研究論文及び参考図書を講読し、学習内容を把握し、疑問点等を抽出する（約2時間） 復習：講義終了後に、講義内容の再確認及び疑問点を抽出し、疑問点について調べる（約2時間）	
教科書・参考書	教科書：使用しない 参考書：講義において適宜紹介する。	
オフィス・アワー	講義終了後	
国家試験出題基準	《精神看護学》Ⅱ-2-A`E 《精神看護学》Ⅱ-3-A`D 《精神看護学》Ⅱ-4-A`C 《精神看護学》Ⅱ-5-A`D 《精神看護学》Ⅱ-6-A`B	
履修条件・履修上の注意	精神保健及び精神看護学に関する各自の関心事項を基に講義を進めるので、受講に際しては自己の精神保健及び精神看護学に関する関心を明確にできることが必要となる。同時に、主体的な学習が求められることを理解しておくこと。	

講義科目名称：臨床看護管理学

授業コード：2N098

英文科目名称：Clinical Nursing Administration and Policies

対象カリキュラム：25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
萩原 一美			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 看護とマネジメント（講義） 管理とは何か、看護マネジメントの基礎、看護管理過程、組織管理を理解する。</p> <p>第2回 マネジメントに必要な知識と技術（講義） マネジメントプロセスと、リーダーシップとメンバーシップ、組織調整について理解する。</p> <p>第3回 看護ケアのマネジメント：患者の権利の尊重と看護業務（講義） 看護ケアの対象の権利の尊重と安全管理との関係を考える。また、チーム医療として看護職同士及び他職種との連携を理解した上で、看護業務の内容及びマネジメントの必要性を考える。</p> <p>第4回 看護ケアのマネジメント：医療安全とチーム医療（講義・GW） 看護職だけではなく多職種で協働するチームとしての医療安全管理を考える。</p> <p>第5回 看護サービスのマネジメント：組織としての看護サービス（講義） 組織の考え方や、組織づくりの基本を理解する。</p> <p>第6回 看護サービスのマネジメント：人材、施設・設備、物品のマネジメント（講義） 看護サービス提供のしくみ作りを理解し、人的・物的・財的管理を考える。</p> <p>第7回 看護職のキャリアマネジメント（講義） キャリアに関連する言葉の概念を理解する。また、看護職として成長するためにキャリア開発について考える。</p> <p>第8回 看護を取り巻く諸制度（講義・GW） 統合実習で学ぶ看護管理の実際を制度や法的根拠と結びけて考える。</p>	萩原 一美 萩原 一美 萩原 一美 萩原 一美 萩原 一美 萩原 一美 萩原 一美 萩原 一美
科目の目的	看護管理は、これまで病院の看護師長など管理者になろうとする者だけが学ぶものという理解だったが、看護職の活躍の場が医療機関だけでなく、地域の保健医療福祉の場へと拡大したため、その知識と技術は、看護管理者だけでなく看護実践者にも必要とされている。看護職は、医療チームや組織・システムの中で新しいヘルスケアシステムを創造し展開するマネジメントを期待されている。本科目では、マネジメントの基本である人的資源、物的資源、財的資源を理解し、チーム医療の中で看護職同士の協働、他職種との連携、医療安全について考察する。これらの理論と4年次配当の総合実習と結び付け理解を深める。さらに、生涯看護職として成長し続けるためのキャリアマネジメントについても学ぶ。【知識・理解】【思考・判断】【技能・表現】【関心・意欲】【態度】	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護管理の定義と概念構成・基本的構成要素、歴史的変遷について理解する。</li> <li>2. 看護マネジメントに活用する理論を理解する。</li> <li>3. 看護サービスのマネジメントの目的、仕組みづくり、人的・物的・財的管理を理解する。</li> <li>4. 看護を取り巻く諸制度と法的根拠を土台として、看護ケアと医療安全管理、チーム医療を考察し、課題を発見する。</li> <li>5. 看護職のキャリアマネジメントの必要性を理解し、自らの看護職としてのキャリア開発を考察する。</li> </ol>	
関連科目	看護学概論Ⅰ、看護学概論Ⅱ、法学、チーム医療論、	
成績評価方法・基準	筆記試験 100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各コマ 事前学習として90分、事後学習として30分の学習時間を必要とする。	
教科書・参考書	教科書：系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践① 上泉和子他著：. 医学書院 参考書： 看護管理学習テキスト1～8・別巻. 井部俊子, 中西睦子監：日本看護協会出版会 ナーシング・グラフィカ看護の統合と実践① 看護管理. 村島さい子, 加藤和子, 瀬戸口要子編：メディカ出版	
オフィス・アワー	【萩原（一）研究室】授業日及び水曜日（12：10～12：50）	
国家試験出題基準	【看護師】 ≪必修問題≫ I-4-Ba <sup>~</sup> e, I-4-Ca <sup>~</sup> c, I-5-Aa <sup>~</sup> d, I-5-Ba <sup>~</sup> b. II-9-A-d, B-be. IV-15-B-e. ≪健康支援と社会保障制度≫ I-1-Ce <sup>~</sup> f. II-4-Bb <sup>~</sup> c. 5-Bf. ≪基礎看護学≫ I-1-A-bc. I-1-D-b <sup>~</sup> c. 2-C-c. III-6-A-abc. ≪看護の統合と実践≫ I-1-A-a <sup>~</sup> c, B-a <sup>~</sup> h, C-a <sup>~</sup> e, D-a <sup>~</sup> d, E-a <sup>~</sup> c, F-a <sup>~</sup> e, G-ab. III-3-B-a, C-ab. IV-4-A~J.	
履修条件・履修上の注意	事前に提示したテーマでディスカッションを行うので、発言できるように自分の考えをもって授業に臨むことを期待する。	



	第22回	地域診断演習14：対策の検討・年間活動計画2 母子、成人高齢者等領域別に年間活動計画を作成する。	小林・廣田・桐生
	第23回	地域診断演習15：対策の検討・年間活動計画3 母子、成人高齢者等領域別に年間活動計画を作成する。	小林・廣田・桐生
	第24回	地域診断演習16：対策の検討・年間活動計画4 母子、成人高齢者等領域別に年間活動計画を作成する。	小林・廣田・桐生
	第25回	地域診断演習17：保健事業（実施）計画1 母子または成人高齢者領域の年間活動計画から1つの事業を選択して保健事業計画を策定する。	小林・廣田・桐生
	第26回	地域診断演習18：保健事業（実施）計画2 母子または成人高齢者領域の年間活動計画から1つの事業を選択して保健事業計画を策定する。	小林・廣田・桐生
	第27回	地域診断演習19：保健事業（実施）計画3 母子または成人高齢者領域の年間活動計画から1つの事業を選択して保健事業計画を策定する。	小林・廣田・桐生
	第28回	地域診断演習20：報告・検討会準備 健康課題抽出～保健事業計画立案までのプロセスをまとめて、発表する準備を行う。	小林・廣田・桐生
	第29回	地域診断演習21：地域保健活動計画報告・検討会1 作成した資料を提示しながら、地域診断ならびに保健事業計画立案のプロセスを報告する。	小林・廣田・桐生・矢島
	第30回	地域診断演習22：地域保健活動計画報告・検討会2 作成した資料を提示しながら、地域診断ならびに保健事業計画立案のプロセスを報告する。	小林・廣田・桐生・矢島
科目の目的	地域を単位とした健康問題の探求と、問題解決に向けた組織的・計画的な活動の展開方法を説明できる。さらに、保健計画の策定・遂行・評価、及び施策化に関わる看護専門職の役割について理解を深める。【思考・判断】		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域の特性と健康課題を捉え、優先順位をつけることができる。</li> <li>2. 健康課題に対する解決・改善に向けた目的・目標を設定できる。</li> <li>3. 目標達成の手段を明確にし、年間活動計画・保健事業計画を立案できる。</li> <li>4. 地域の健康管理における関係機関、関係職種との連携の必要性と方法を説明できる。</li> <li>5. 評価の項目・方法・時期を設定できる。</li> </ol>		
関連科目	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学Ⅰ、公衆衛生看護学Ⅲ、公衆衛生看護学Ⅳ、公衆衛生看護管理学、公衆衛生看護学実習、疫学、保健統計		
成績評価方法・基準	試験(50%)、演習課題(50%)		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の講義に臨む前にテキスト、配付資料を精読しておいてください。演習では、前回の課題目標までは到達していることを求めます。準備学習に必要な学習時間として1～8回目（講義）は30分/回、9回目以降（演習）は90分/回を要します。		
教科書・参考書	教科書：「最新保健学講座5 公衆衛生看護管理学」平野かよ子編集（メヂカルフレンド社） 教科書：「国民衛生の動向2017/2018」（財団法人厚生統計協会）		
オフィス・アワー	小林、廣田、桐生、矢島：月～金 12:10～13:00、16:10～18:00		
国家試験出題基準	≪公衆衛生看護学概論≫3-A, B 4-A, b, C 5-A～E ≪公衆衛生看護方法論Ⅰ≫1～5 ≪公衆衛生看護方法論Ⅱ≫1～6 ≪保健医療福祉行政論≫1～7		
履修条件・履修上の注意	保健師国家試験受験資格取得のための要件科目		

講義科目名称：公衆衛生看護管理学

授業コード：2N106

英文科目名称：Public Health Nursing Administration

対象カリキュラム：25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
矢島 正栄			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 公衆衛生看護管理の基本 公衆衛生看護管理の意義、公衆衛生看護管理の特色、公衆衛生看護管理の諸相	矢島
	第2回 情報管理 健康関連情報の収集・管理・発信、個人情報取り扱い、情報公開、地域における情報ネットワークの構築	矢島
	第3回 組織運営・管理 組織の目的、組織運営の基本、地方自治体における組織の仕組み・権限・意思決定と指示系統、事業の計画と運営、施策化のプロセス	矢島
	第4回 予算管理 国および地方自治体における予算の仕組みと保健衛生関係予算の実際、予算の確保と執行	矢島
	第5回 人事管理・人材育成 人事管理の目的、人員確保・適材配置・労務管理の実際、人事評価、人材育成方針、現任教育の計画と方法の実際	矢島
	第6回 地域ケアシステムづくり、地域ケアの質保証 地域ケアシステムとは、地域ケアシステムの発展過程と保健師の役割 地域情報の管理、サービス提供機関のアセスメント、関係者との連携・協働、社会資源の開発	矢島
	第7回 地域における健康危機管理 健康危機管理とは、健康危機管理の体制と保健師の活動	矢島
	第8回 地域における健康危機管理 健康危機管理の実際	矢島
科目の目的	人々が健康で暮らしやすい地域をつくるための公衆衛生看護管理の意義と実際について理解を深める。【知識・理解】	
到達目標	1. 公衆衛生看護管理の意義と特色を説明できる。 2. 公衆衛生看護管理における情報管理、組織管理、事業・業務管理、予算管理、人事管理・人材育成の基本的考え方と方法を説明できる。 3. 地域ケアの質保証、地域における健康危機管理、地域ケアシステムづくりの意義、目的、保健師の役割を説明できる。	
関連科目	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学Ⅱ、地域保健行政、社会福祉・社会保障制度論、災害看護	
成績評価方法・基準	定期試験80%、レポート20%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の講義に臨む前にテキスト、配付資料を精読しておいてください。1コマにつき4時間程度の準備学習を求めます。	
教科書・参考書	教科書 「標準保健学講座1 公衆衛生看護学概論」(医学書院)  参考書 なし	
オフィス・アワー	月～金 16:30～18:00	
国家試験出題基準	保健師国家試験出題基準 《公衆衛生看護管理論》 1-A, B, C, D, E, F 2-A, B, C 《健康危機管理》 1-A, B, C	
履修条件・履修上の注意	Active Academyにより資料を事前配付しますので、授業に持参してください。 保健師課程選択者は履修してください。	

講義科目名称：基礎助産学 I（概論）

授業コード：2N107

英文科目名称：Basic Midwifery I

対象カリキュラム：25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
早川 有子	荒木 重雄		

授業形態	講義 8回		担当者
授業計画	<p>第1・2回 助産の概念 助産師の職制と業務</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助産の概念：助産の起源 出産の変遷 助産の定義など</li> <li>・助産師の定義 助産師の業務</li> <li>・助産・助産師の定義：ICMに規定される助産の基本概念 ICMの活動 WHO</li> <li>・助産師の役割と責務：助産の意義 助産師の職業倫理 ICM WHO</li> <li>・助産における基本的な概念</li> <li>・地域のさまざまな場における助産師の役割</li> </ul> <p>第3回 助産師と倫理 性・生殖と人権と倫理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助産師と生命倫理 助産師と職業倫理</li> <li>・性と生殖における倫理 女性の意思決定と擁護</li> <li>・母体保護 出生前診断など</li> </ul> <p>第4回 助産の歴史と文化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助産の変遷（出産の変遷）</li> <li>・助産師の変遷（わが国及び世界）</li> <li>・助産師の法的変遷</li> </ul> <p>第5回 母子保健の動向</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・母子保健の歴史</li> <li>・母子保健の動向と諸制度</li> <li>・母子保健活動における連携・協働</li> </ul> <p>第6回 助産師と教育</p> <p>我が国における助産師教育の歴史</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・諸外国における助産師教育</li> </ul> <p>第7回 助産の将来</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助産師の役割（業務・責務）とこれからの展望</li> <li>・助産の将来</li> <li>・全体討議（1～7の講義を通して）</li> </ul> <p>第8回 我が国の産科医療に求められるチーム医療 特別講義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特に「患者中心のケアにおける助産師の役割とスキル」</li> </ul>	<p>早川</p> <p>早川</p> <p>早川</p> <p>早川</p> <p>早川</p> <p>早川</p> <p>早川</p> <p>荒木</p>	
科目の目的	<p>・助産師の役割・責務および助産師に求められる知識と社会人としての教養(姿勢・態度も含む)について学ぶ。</p> <p>・専門助産師として自立できる能力及び他の職種(医師等)とパートナーを持って連携できる能力を養う。</p> <p>・生涯にわたる看護の探究の基とする。【知識・理解】</p>		
到達目標	<p>・助産師の役割・責務について説明できる。</p> <p>・母子並びに家族の尊厳と権利の尊重を理解し、助産師としての職業倫理について説明できる。</p> <p>・国際的視野の感覚を持てる助産師を目指す。</p>		
関連科目	専門科目群：母性看護学総論		
成績評価方法・基準	定期試験（100%）		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習の内容：母性看護学に関する既習講義内容の復習をして臨むこと。 準備学習時間の目安：3時間45分		
教科書・参考書	教科書：助産学概論（医学書院） 参考書：世界の出産（勉誠出版）新版助産業務要覧（日本看護協会）		
オフィス・アワー	早川（講義前後） 荒木（講義前後）		
国家試験出題基準	《基礎助産学》 I-1-A. B. I-2-C. I-3-A. B. I-4-A. B.		
履修条件・履修上の注意	助産師課程履修者のみ履修可能とする。Active Academy により資料を事前配布する、各自印刷して授業に持参すること		

講義科目名称：基礎助産学Ⅱ（基礎医学）

授業コード：2N108

英文科目名称：Basic Midwifery II

対象カリキュラム：25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
早川 有子	竹中 恒久	牛島 廣治	

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 遺伝と遺伝性疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遺伝医学の重要性</li> <li>・ 染色体：染色体と遺伝子 遺伝の法則 常染色体異常 性染色体異常</li> <li>・ 遺伝子：遺伝子疾患</li> <li>・ 遺伝性疾患の分類</li> <li>・ 出生前診断</li> </ul> <p>第2回 母子と薬剤</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 性と生殖に関する薬物</li> <li>思春期 成熟期 更年期と薬物：経口避妊薬 排卵誘発剤など</li> <li>妊娠、分娩、産褥、授乳期と薬物：</li> <li>陣痛促進剤 子宮収縮剤 緊急避妊薬 薬物の催奇形性 薬物の母乳移行など</li> </ul> <p>第3回 母子の健康に影響を及ぼす因子 母子と感染</p> <p>母子と生活環境</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 物理的要因：放射線 騒音など</li> <li>・ 化学的要因：大気汚染 環境汚染物質と環境など</li> <li>・ 母子と嗜好品・薬物：たばこ アルコール 依存性薬物など</li> </ul> <p>母子と感染：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 母子感染の重要性</li> <li>・ 母子感染の機序</li> <li>・ 母子感染総論</li> <li>・ 母子感染各論：</li> </ul> <p>ヒトパルボウイルスB19 C型肝炎ウイルス ヒト免疫不全ウイルス（HIV） 成人T細胞白血病ウイルス トキソプラズマ 梅毒トレポネーマ ヒトパピローマウイルス 風疹 梅毒など</p> <p>第4回 母子と感染</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乳幼児に起こりやすい疾患（感染症）：</li> <li>麻疹 水痘 突発性発疹 手足口病 カンジダ症 RSウイルス感染症</li> <li>伝染性膿痂疹 乳幼児下痢症（ロタウイルス ノロウイルス）</li> </ul> <p>第5回 母子と免疫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 免疫とは</li> <li>・ 母体の免疫学的特徴 ・ 胎児の免疫学的特徴 ・ 新生児の免疫学的特徴</li> <li>・ 免疫と母乳栄養 免疫と予防接種など</li> <li>・ 妊娠の維持機構と免疫 ・ 臓器の成熟と器官形成（免疫系）</li> <li>・ 免疫能の特性</li> <li>・ 低出生体重児の特徴：免疫</li> </ul> <p>第6・7回 母子と栄養</p> <p>母子の健康と食生活：妊娠期・授乳期の栄養と食生活 栄養に関する基礎知識 妊婦の栄養：妊婦の栄養と食生活 母体の栄養と胎児の発育 妊産婦の食生活指針 授乳婦の栄養： 乳幼児の栄養： 学童・思春期の子どもの栄養： 母子の健康に影響を及ぼす因子：栄養所要量 母体栄養と妊娠合併症：妊娠高血圧症候群など</p> <p>第8回 母子への援助・予防</p> <p>遺伝・感染・免疫・薬剤・栄養に関する母子の予防と援助 1～5の学びを通してGW 発表</p>	<p>竹中</p> <p>竹中</p> <p>竹中</p> <p>牛島</p> <p>牛島</p> <p>早川</p> <p>早川</p>
科目の目的	遺伝・感染・免疫・薬剤・栄養の学びを通して、母子の健康に影響を及ぼす因子について学ぶ。 【知識・理解】	
到達目標	遺伝・感染・免疫・薬剤・栄養の視点から母子の健康が説明できる。	
関連科目	専門基礎科目：生理学 解剖学Ⅱ 免疫・感染症学 薬理学 臨床薬理学 栄養学 健康管理論	
成績評価方法・基準	定期試験（100％）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習の内容：母性看護、助産ケアに関連ある既習科目の予習をして講義に臨むこと。 準備学習時間の目安：3時間45分	
教科書・参考書	教科書：基礎助産学2（母子の基礎科学）医学書院 基礎助産学3（母子の健康科学）医学書院 産婦人科診療ガイドライン（産科編）日本産婦人科学会事務局 参考書：必要時提示	
オフィス・アワー	講義開講日：講義前後 放課後 非常勤講師：講義前後	

国家試験出題基準	《基礎助産学Ⅰ》－Ⅱ-7-A. B. C. Ⅱ-8-A Ⅱ-9-A. B. Ⅱ-10-A. B. C. D. E. 《基礎助産学Ⅱ》－Ⅰ-2 Ⅰ-4. Ⅰ-5-A.B. Ⅰ-10-D. －Ⅱ-16-G. Ⅱ-20-B. Ⅱ-21-A
履修条件・履修上の注意	助産師課程履修者のみ履修可能とする。

講義科目名称：基礎助産学Ⅲ

授業コード：2N109

英文科目名称：Basic Midwifery III

対象カリキュラム：25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
中島久美子	岡崎 友香	石坂 泰子	

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 女性のライフサイクル：思春期・青年期女性への援助 ・月経前緊張症、望まない妊娠と中絶、STD：ピアエデュケーションの役割と実践に向けての説明</p> <p>第2回 女性のライフサイクル：成人期女性への援助（妊娠・出産をめぐる問題1） ・不妊症、不妊治療患者の心理、不妊治療と治療後妊娠における諸問題と助産ケア</p> <p>第3回 女性のライフサイクル：成人期女性への援助（妊娠・出産をめぐる問題2） ・出生前診断をめぐる問題、出生前診断を考える女性の意思決定へのケア、 ・流産・死産の悲嘆反応、子どもを亡くした親へのケア（親子をめぐる問題） ・障害のある子どもを育てる親へのケア（親子をめぐる問題）</p> <p>第4回 女性のライフサイクル：思春期・青年期女性への援助（2） ピアエデュケーションを用いた性教育と母性看護の支援に関する演習：準備</p> <p>第5回 親一子をめぐる問題：母子関係（1）：正常な経過からの逸脱・ハイリスク状態にある妊産婦の子女多母理論と援助産期の母親のメンタルヘルスと母子関係・愛着障害・児童虐待、産前・産後うつ病、産後うつ病が子どもの心身の発達に与える影響</p> <p>第6回 親一子をめぐる問題：母子関係（2）：正常な経過からの逸脱・ハイリスク状態にある妊産婦の親・被災を受けた妊産婦 外国人妊産婦・多胎児を育てる親・低出生体重児の親</p> <p>第7回 親一子をめぐる問題：父子関係 ・父親の育児、子育てにおける父親の抑うつ</p> <p>第8回 家族と社会 父母と社会、子どもと社会 ・家族とは、近代家族の特徴、家族をめぐる諸問題、夫婦関係と夫婦の関係性への支援 ・家族と法（児童虐待防止法、DV防止法） ・母親と社会、父親と社会 ・現代の家族支援への道のり、日本の子育て支援、世界の子育て支援</p>	<p>中島久美子</p> <p>岡崎友香</p> <p>石坂泰子</p> <p>中島久美子</p> <p>中島久美子</p> <p>中島久美子</p> <p>中島久美子</p> <p>中島久美子</p>
科目の目的	女性のライフサイクル各期における心理社会的問題や、親子関係、家族・父母・子どもと社会をめぐる問題について理解し、助産師として必要とされる考え方、支援について学ぶ。 【知識・理解】	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思春期・青年期女性の健康問題として、望まない妊娠と中絶等を理解し、必要な助産援助を学ぶことができる。（ピアエデュケーターとしての役割を含む）</li> <li>・成人期女性の健康問題として、不妊・流早産・死産等を理解し、必要な助産援助を学ぶことができる。</li> <li>・親子関係（母子関係、父子関係）の問題について、虐待障害や産後うつ等を理解し、子育て支援について学ぶことができる。</li> <li>・家族と社会をめぐる問題について理解し、子育て支援について学ぶことができる。</li> </ul>	
関連科目	母性看護学総論、母性看護学Ⅰ、母性看護学Ⅱ、基礎助産学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅰ（医学的診断と周産期ハイリスクへの処置）	
成績評価方法・基準	定期試験（50％）、課題提出（30％）、演習（20％）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習内容：母性看護学総論、母性看護学Ⅰ、母性看護学Ⅱの復習 準備学習の目安：3時間45分	
教科書・参考書	教科書：「助産学講座4、基礎助産学[4]、母子の心理・社会学」村瀬聡美・我部山キヨ子（医学書院） 「助産師基礎教育テキスト第7巻ハイリスク妊産婦・新生児へのケア」遠藤俊子（日本看護協会出版会）	
オフィス・アワー	講義開講日の昼休み（専任教員） 講義開講前後の休憩時間（非常勤講師）	
国家試験出題基準	【助産師】 《基礎助産学Ⅰ》Ⅱ-2-d, e Ⅲ-10-c 《助産診断・技術学Ⅰ》Ⅲ-7 《助産診断・技術学Ⅱ》Ⅷ-21, 22	
履修条件・履修上の注意	助産師課程履修者のみ履修可能とする。	

講義科目名称：基礎助産学Ⅳ（助産学研究）

授業コード：2N110

英文科目名称：Basic Midwifery IV

対象カリキュラム：25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4学年	2単位	選択
単位認定者	担当者		
早川 有子	中島久美子	臼井 淳美	

授業形態	演習	担当者
授業計画	<p>第1・2回 オリエンテーション 研究とは                      ・研究と助産学生（論文のクリティーク：卒業生の論文 学術論文）                      ・助産学を支える理論と研究                      助産学を構成する理論 研究と助産師</p> <p>第3・4回 文献検索                      助産学研究のテーマ設定と発表</p> <p>第5-16回 研究計画書の作成（倫理含む）                      研究計画書についての発表・討議                      各実習施設にて、約5例の受け持ち事例を通して学ぶ。                      例 会陰裂傷を防ぐためには 母乳栄養への援助など</p> <p>第17-30回 研究実施 論文まとめ 発表                      各実習施設ごとに計画書にそって研究を実施する。                      ＊ 助産実習がスタートする前、研究計画書はほぼ完成していることが条件となる。</p>	<p>早川他</p> <p>早川他</p> <p>早川他</p> <p>早川他</p>
科目の目的	助産学における研究課題を学生自ら主体的に探究することを通して、総合的な理解を養う。 学生自身が講義・演習・実習を通して興味を持ったテーマを選定し、理論に基づき、教員の指導のもとで研究を計画・実施し、さらに、その成果を発表・論文化する。	
到達目標	各施設の指導教員のもと、自分の選定したテーマに従い研究計画書をたて、実施、その成果について論文を作成、発表する。	
関連科目	既習の科目全て関連する。	
成績評価方法・基準	研究計画書作成（30%） 実施・論文まとめ（60%） 論文発表（10%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習の内容：取り組みたいテーマについての文献検索、研究計画書の書き方を学習し講義演習に臨むこと。 準備学習時間の目安：1時間	
教科書・参考書	教科書：基礎助産学Ⅰ 医学書院 参考書：看護研究step by step 黒田裕子 医学書院 パソコンで進める やさしい看護研究 富田真佐子 ohmsha社 看護研究入門・実施・評価・活用：ナンシー・パーンズ他 エルゼビア・ジャパン	
オフィス・アワー	講義開講日：講義前後 放課後 各研究担当者と相談	
国家試験出題基準	基礎助産学Ⅰ I-1-B, C, D	
履修条件・履修上の注意	助産師課程履修者のみ履修可能とする	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
横田 佳昌	家坂 直子		

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1・2回 妊娠期の異常・ハイリスク</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠期の異常：妊娠疾患：妊娠悪阻 妊娠高血圧症候群</li> <li>・妊娠持続期間異常：流産 早産 過期妊娠など</li> <li>・着床異常：異所性妊娠 前置胎盤 低位胎盤 低置胎盤など</li> <li>・胎児異常妊娠：胎児発育不全 血液型不適合妊娠 多胎妊娠など</li> <li>・胎児付属物異常妊娠：絨毛膜羊膜炎 常位胎盤早期剥離 など</li> </ul> <p>ハイリスク妊娠</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・偶発性合併妊娠：心疾患合併妊娠 呼吸器疾患合併妊娠 糖尿病合併妊娠など</li> </ul> <p>第3・4回 分娩期の異常・偶発疾患 産科手術および産科医療処置</p> <p>分娩の3要素の異常</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・娩出力の異常：過強陣痛 微弱陣痛</li> <li>・産道の異常：軟産道強靱 狭骨盤</li> <li>・胎児の異常：回旋・進入の異常 巨大児など</li> <li>・胎児付属物の異常：絨毛膜羊膜炎 臍帯巻絡 臍帯下垂・脱出 常位胎盤早期剥離</li> </ul> <p>前置胎盤など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分娩経過の異常：肩甲難産 子宮内反症 など</li> <li>・軟産道損傷：膣・会陰裂傷 頸管裂傷 子宮破裂など</li> <li>・出血量の異常：弛緩出血など</li> <li>・産科ショック：出血性ショック 羊水塞栓 DIC など</li> <li>・産科手術および産科医療処置：骨盤位牽出術 吸引遂娩術 鉗子遂娩術 無痛分娩（硬膜外麻酔）帝王切開術</li> </ul> <p>分娩誘発・促進時の管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急事態の予測と予期的対応</li> </ul> <p>第5回 産褥期の異常・偶発疾患</p> <p>性器の異常：子宮復古不全 晚期産褥出血など・産褥器感染症：産褥熱 尿路感染症</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・血栓・塞栓症：深部静脈血栓・肺塞栓症</li> <li>・乳房・乳頭・乳腺異常：乳腺炎など</li> <li>・産褥期精神障害：マタニイブルー 産後うつ病 など</li> <li>・産後後遺症：妊娠高血圧症候群後遺症</li> </ul> <p>第6回 NICUとハイリスク新生児</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早産児・低出生体重児のケア</li> <li>・ハイリスク児の主要な病態とケア：呼吸障害 チアノーゼ おう吐 新生児痙攣 病的黄疸 感染症など</li> </ul> <p>第7回 合併症がある妊・産・褥婦</p> <p>心疾患 腎疾患 甲状腺疾患 糖尿病 子宮筋腫</p> <p>第8回 妊娠期の助産診断に必要な検査法 臨床検査 母体・胎児の健康診査に必要な検査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠期の検査：妊娠診断薬 胎児胎盤機能検査 胎児血採血</li> </ul>	<p>家坂</p> <p>家坂</p> <p>家坂</p> <p>家坂</p> <p>家坂</p> <p>横田</p>
科目の目的	妊娠・分娩・産褥・新生児の正常・異常を助産診断し、助産ケアに生かすことができる能力を養う。 【知識・理解】	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠・分娩・産褥・新生児期の正常・異常を診断できる。</li> <li>・妊娠・分娩・産褥・新生児期の正常・異常を助産師の立場から判断し、ケアに結び付けて考えられる。</li> <li>・緊急事態に対応できる能力を養う。</li> </ul>	
関連科目	母性看護学ⅠⅡ 助産診断技術学演習	
成績評価方法・基準	定期試験100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習の内容：既習で学んだ母性看護、助産師ケアの復習をして講義に臨むこと。 準備学習時間の目安：3時間45分	
教科書・参考書	教科書：助産診断技術学Ⅱ（1 2 3）医学書院 病気がみえる 産科 第4版 メディックメディア 参考書：産婦人科診療ガイドライン（産科編2014）日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会	
オフィス・アワー	横田：講義前後 家坂：講義前後	
国家試験出題基準	《基礎助産学Ⅱ》Ⅱ-16-A. B. C. E. F. Ⅱ-17-A. B. C. D. E. F. G. H. Ⅱ-18-A. B. C. D. E. F. Ⅱ-19-A. B. Ⅱ-20-A. B. C. D. Ⅱ-22-A. B.	
履修条件・履修上の注意	助産師課程履修者のみ履修可能とする。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
臼井 淳美	中島久美子		

授業形態	講義（一部グループワークを含む）	担当者
授業計画	<p>第1回 妊娠期の経過と診断 （グループワーク） 妊娠の成立・維持 妊娠経過の診断（正常・異常を含む） ・妊娠による母体の変化 胎児の発育・健康状態の診断 妊娠期の助産診断の特徴 ・助産診断 ・紙上事例の紹介</p> <p>第2・3回 妊娠期の助産診断と正常妊娠経過にある妊婦への援助① 妊娠初期～中期の助産診断とケア（グループワーク） ・妊婦健康診査における妊娠経過の診断とケア ・妊婦の健康生活の診断とケア ・妊娠期のフィジカルアセスメント ・社会的側面の診断とケア ・紙上事例の助産診断</p> <p>第4回 保健指導の技術 個別相談、集団指導の基本 個人への保健指導 ・マイナートラブルなどへの支援、バースプランの作成への支援など 集団への保健指導 ・出産前準備教室などの集団指導の実際 保健指導案の立案（紙上事例・グループワーク） ・事例に沿った保健指導案の作成（妊娠期に関わる助産計画）</p> <p>第5回 妊娠期の助産診断と正常妊娠経過にある妊婦への援助② 妊娠後期の助産診断とケア（グループワーク） 講義40分+事例50分 ・妊婦健康診査における妊娠経過の診断とケア ・妊婦の健康生活の診断とケア ・妊娠期のフィジカルアセスメント ・社会的側面の診断とケア ・紙上事例の助産診断 *事例に沿った保健指導案の作成（分娩期・産褥期への継続的助産計画）</p> <p>第6回 妊娠期の心理 妊娠前期・中期・末期における心理 ・妊娠期における心理の変化 ・親役割準備への支援 ・家族の役割の変化に対する支援</p> <p>第7・8回 正常な妊娠経過からの逸脱およびハイリスク妊婦へのアセスメントと援助 身体的・心理社会的ハイリスク因子のアセスメント 異常妊娠・ハイリスク妊婦とその家族へのケア ・切迫流産、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、多胎妊娠などを合併している妊婦への 助産ケア ・異常出血に対する処置への対応 ・合併症妊娠（心疾患・精神疾患など）に関連する助産ケア 助産師による妊婦のリスク診断</p>	<p>臼井淳美</p> <p>臼井淳美・ 中島久美子</p> <p>臼井淳美 中島久美子</p> <p>臼井淳美 中島久美子</p> <p>中島久美子</p> <p>臼井淳美</p>
科目の目的	妊娠経過の正常・異常の診断について学び、安定した妊娠期の生活ができるための支援とハイリスク妊娠時のケアおよび支援について学ぶ。【知識・理解】【思考・判断】【技能・表現】	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正常経過にある母体の妊娠による変化と胎児の成長・発育について説明できる。</li> <li>・妊婦及び家族の健康保持や正常からの逸脱を予防するための保健指導、出産や育児準備・心理的適応化への援助が説明できる。</li> <li>・妊娠各期における妊婦および胎児の助産診断と、その診断に基づくケアについて説明できる。</li> <li>・ハイリスク妊婦や正常を逸脱した妊婦およびその家族に必要なケアを考察できる。</li> </ul>	
関連科目	専門科目群：母性看護学総論、母性看護学Ⅰ、母性看護学Ⅱ、公衆衛生看護学Ⅲ、基礎助産学Ⅱ、基礎助産学Ⅲ、助産診断技術学Ⅰ、助産診断技術学Ⅵ	
成績評価方法・基準	定期試験（80％）、課題提出（20％）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母性看護に関する既習の講義内容、公衆衛生看護学Ⅲの講義内容を復習しておくこと</li> <li>・【準備学習に必要な時間の目安】各講義につき3時間45分の授業時間外における学習（予習・復習など自己学習）が必要となる。</li> </ul>	
教科書・参考書	教科書：「助産学講座6、助産診断・技術学Ⅱ、[1] 妊娠期」我部山キヨ子・武谷雄二（医学書院） 「助産学講座5、助産診断・技術学Ⅰ」堀内成子（医学書院）	

	<p>「助産師基礎教育テキスト 2019年版 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」遠藤敏子（日本看護協会出版会）</p> <p>参考書：「助産師基礎教育テキスト 2019年版 第4巻 妊娠期の診断とケア」森恵美（日本看護協会出版会）</p> <p>「最新産科学 正常編 改訂第22版」，荒木勤（文光堂）</p> <p>「今日の助産 改訂第3版」，北川眞理子・内山和美（南江堂）</p> <p>その他、講義内で紹介する。</p>
オフィス・アワー	<p>臼井淳美（研究室320）：講義前後、講義開講日の放課後</p> <p>中島久美子（研究室318）：講義前後</p>
国家試験出題基準	<p>【助産師】</p> <p>《基礎助産学Ⅱ》- I-1-A, B, I-2-A, B, I-3-B, I-4-A, B, I-5-A, B, C, D</p> <p>《助産診断・技術学Ⅰ》 I-1-A, B, C, D</p> <p>《助産診断・技術学Ⅱ》 I-2-A, II-3-A, B, C, D, E, II-4-A, B, C</p> <p>《地域母子保健》Ⅲ-4-B</p>
履修条件・履修上の注意	<p>助産師課程履修者のみ履修可能とする。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	2単位	選択
単位認定者	担当者		
中島久美子	白井 淳美		

授業形態	講義8回，演習7回		担当者
授業計画	<p>第1回 助産診断・技術学の概要 ・助産過程の概要、助産診断学の概要、助産技術学の概要 ・助産診断学・助産技術学の理論構築（教科書「1妊娠期」）</p> <p>第2回 分娩の基礎、正常分娩、分娩が母体・胎児に与える影響、分娩期の心理社会的変化 分娩診断の基礎知識、正常な分娩経過、分娩機序、 ・分娩による母体への影響、胎児への影響 ・分娩期の心理社会的特徴 ・検体検査に必要な知識</p> <p>第3・4回 分娩期の助産診断 分娩期のフィジカルアセスメント ・分娩進行状態の診断：分娩開始の予知・分娩開始・破水・分娩経過の診断、 ・産婦及び胎児の健康状態の診断、産婦の心理社会的側面の診断、出生直後の新生児の診断</p> <p>第5・6回 正常経過にある産婦への援助 ・援助の基本、分娩進行に伴う助産ケア（第1期、第2.3期、分娩後2時間まで）、 ・分娩経過に伴う産婦と家族の心理社会的側面のケア ・主体的出産への支援、産婦の分娩想起と出産体験理解への支援 ・出生直後の母子接触・早期授乳支援</p> <p>第7・8回 正常な分娩経過からの逸脱及びハイリスク状態にある産婦のアセスメントと援助 ・身体的ハイリスク因子のアセスメント、心理的ハイリスク因子のアセスメント、 ・援助の基本、正常分娩急変時の対応、分娩中・産褥期に搬送すべき症状を呈する母体の疾患 ・バルサルバ法、クリステル圧出法の影響 ・吸引分娩、鉗子分娩の適応 ・羊水混濁時 肩甲難産時の対応 ・異常出血時の対応 ・分娩誘発・促進時のケア</p> <p>第9-11回 助産過程の展開（紙上事例） （分娩期） 正常分娩の助産診断 （産褥期） 正常産婦の助産診断 （新生児） 正常新生児の助産診断</p> <p>第12-15回 ハイリスク状態・異常への支援（紙上事例） （妊娠期の異常） ハイリスク妊婦・異常妊婦の助産診断（PIH, PROM, 切迫早産） （分娩期の異常） ハイリスク分娩・異常分娩の助産診断（異常出血の処置・帝王切開前後のケア） （産褥期・新生児の異常） ハイリスク産婦（メンタルヘルス）・新生児の助産診断（低出生体重児、帝切分娩児のケア）</p>	<p>中島久美子</p> <p>中島久美子</p> <p>中島久美子</p> <p>中島久美子</p> <p>中島久美子</p> <p>中島久美子</p> <p>9回中島、 10回白井、 11回白井</p> <p>12回中島、 13回中島、 14回白井</p>	
科目の目的	分娩期における女性と新生児の身体的・心理的・社会的状態について、EBMをふまえた基礎的助産診断・技術を養う。 ハイリスク状態にある産婦の分娩経過から予防的ケアと異常の早期発見・対処ができる能力を養う。 【思考・判断】		
到達目標	分娩の生理と産婦の身体的・心理社会的変化を理解できる。 正常な分娩経過をアセスメントし、助産ケアの実践に繋げることができる。 妊娠・分娩・産褥・新生児の助産過程を展開できる（紙上事例）。 ハイリスク状態にある産婦の分娩経過をアセスメントし、予防的ケアと異常の早期発見・対処が理解できる。		
関連科目	母性看護学Ⅰ、Ⅱ、基礎助産学Ⅱ、基礎助産学Ⅲ、助産診断・技術学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅱ、助産診断・技術学Ⅲ、助産診断・技術学Ⅳ、助産診断・技術学Ⅴ		
成績評価方法・基準	定期試験（50％）・課題提出（50％）		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	基礎助産学及び助産診断・技術学の予習・復習。 準備学習時間の目安：2時間		
教科書・参考書	教科書：「助産学講座6、助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期」我部山キヨ子・武谷雄二（医学書院） 「助産学講座7、助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期」我部山キヨ子・武谷雄二（医学書院） 「助産師基礎教育テキスト7、ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」遠藤俊子（日本看護協会出版会）		
オフィス・アワー	中島：講義開講日の昼休み 白井：講義前後の休み時間		
国家試験出題基準	【助産師】 《基礎助産学Ⅱ》 I-6 《助産診断技術学Ⅱ》 I-1, I-2-B, IV-8, 9, 10		
履修条件・履修上	助産師課程履修者のみ履修可能とする		



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
臼井 淳美			

授業形態	講義（一部グループワークを含む）	担当者
授業計画	<p>第1回 産褥期の経過と診断（グループワーク） 産褥経過の診断（正常・異常を含む） 産褥復古の機序と経過</p> <p>第2回 産褥期の助産診断と正常経過にある褥婦とその家族への援助① 褥婦の健康生活の助産診断 日常生活への適応および退行性変化促進のケア ・栄養、排泄、睡眠・休息、活動、清潔などへのケア 産褥復古が阻害されるか否かの予測と予防的ケア</p> <p>第3回 産褥期の助産診断と正常経過にある褥婦とその家族への援助② 産褥期の心理社会的変化 褥婦の心理社会的側面の診断とケア ・出産体験の受容 ・親役割の獲得、家族の役割獲得と家族関係 愛着形成および親役割の獲得 ・育児能力の診断</p> <p>第4・5回 母乳育児支援 乳汁分泌機序と経過 母乳育児に関する診断 母乳育児へのケア ・母乳育児支援とその実際（母乳育児を行えない/行わない母親への支援を含む。 また、事例を通して、母乳育児支援の実際について考える。） ・一か月健診までの母乳育児支援（指導案の作成）</p> <p>第6回 産褥期の助産診断と正常経過にある褥婦とその家族への援助③ 日常生活への適応および退行性変化促進のケア（退院後～1ヶ月健診まで） （指導案の作成を通して、褥婦に必要なケアを考える） ・母子の一ヶ月健診までの生活への支援（メンタルヘルスケアを中心に） ・社会資源の活用への支援（産後ケア事業） 不快症状緩和へのケア 育児に必要な基本的技術への支援 褥婦のセルフケア能力を高めるための支援 ・家族計画指導</p> <p>第7・8回 正常な産褥経過からの逸脱およびハイリスク状態にある褥婦のアセスメントと援助 身体的・心理社会的ハイリスク因子のアセスメント ハイリスク褥婦や正常を逸脱した褥婦とその家族へのケア ・産褥期の異常と合併症の予防 子宮復古不全、産褥期に起こる感染症、血栓性静脈炎、妊娠高血圧症候群後遺症、 妊娠糖尿病、母子感染症など、身体的に正常を逸脱している褥婦およびその家族への 援助 腹式帝王切開術後の援助</p>	<p>臼井淳美</p> <p>臼井淳美</p> <p>臼井淳美</p> <p>臼井淳美</p> <p>臼井淳美</p> <p>臼井淳美</p>
科目の目的	産褥期の正常・異常の診断および援助・保健指導ができるための知識（母乳育児支援・乳房ケアなど）・技術・態度について学ぶ。これらの技術が母親にとって、自立につながるよう支援できるための能力を養う。また、異常な経過を伴うハイリスク褥婦のケアに対応できる能力を養う。【知識・理解】【思考・判断】【技能・表現】	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正常経過にある褥婦の助産診断が説明できる。</li> <li>・褥婦および、その家族への援助に必要な技術を説明できる。</li> <li>・正常経過にある褥婦に対し、必要な保健指導を説明できる。</li> <li>・ハイリスク褥婦や正常を逸脱した褥婦およびその家族に必要な援助を考察できる。</li> </ul>	
関連科目	専門科目群：母性看護学総論、母性看護学Ⅰ、母性看護学Ⅱ、公衆衛生看護学Ⅲ、基礎助産学Ⅱ、基礎助産学Ⅲ、助産診断技術学Ⅰ、助産診断技術学Ⅵ	
成績評価方法・基準	定期試験（70％）、課題提出（30％）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母性看護に関する既習の講義内容、公衆衛生看護学Ⅲの講義内容を復習しておくこと。</li> <li>・【準備学習に必要な時間の目安】各講義につき3時間45分の授業時間外における学習（予習・復習など自己学習）が必要となる。</li> </ul>	
教科書・参考書	<p>教科書：「助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期」, 我部山キヨ子・武谷雄二 (医学書院)</p> <p>「産産師基礎教育テキスト 2019年版 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」遠藤敏子 (日本看護協会出版会)</p> <p>参考書：「産産師基礎教育テキスト 2019年版 第6巻 産褥期のケア 新生児期・乳幼児期のケア」, 横尾京子 (日本看護協会出版会)</p> <p>「最新産科学 正常編 改訂第22版」, 荒木勤 (文光堂)</p> <p>「今日の助産 改訂第3版」, 北川眞理子・内山和美 (南江堂)</p> <p>その他、講義内で紹介する</p>	

オフィス・アワー	講義開講日：講義前後 放課後
国家試験出題基準	【助産師】 ≪助産診断・技術学Ⅱ≫Ⅶ-15-A, B, C, D, E、Ⅶ-16-A, B, C, D ≪地域母子保健≫Ⅲ-4-B
履修条件・履修上の注意	助産師課程履修者のみ履修可能とする。

講義科目名称：助産診断技術学Ⅴ

授業コード：2N115

英文科目名称：Midwifery Diagnostics Technology Ⅴ

対象カリキュラム：25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
白井 淳美			

授業形態	講義（一部グループワークを含む）	担当者
授業計画	<p>第1回 新生児の経過と診断（事前課題・グループワーク） 新生児の身体的・生理的特徴 ・新生児の身体的特徴 ・新生児の生理的特徴</p> <p>第2回 フィジカルアセスメント 出生直後の新生児の診断とケア 新生児のフィジカルアセスメントとケア（事例展開） ・新生児の観察技術と検査</p> <p>第3回 新生児の診断と援助① 出生後24時間以内の新生児の経過診断とケア</p> <p>第4回 新生児の診断と援助② 出生後24時間以降～生後1週間までの早期新生児期の経過診断とケア ・母子・親子関係を促進するケア ・新生児の行動上の特徴 ・家庭生活への移行とフォローアップ</p> <p>第5回 新生児の診断と援助③ 出生後1ヶ月までの新生児の診断とケア ・退院後の新生児の健康課題に対する予測とケア ・新生児を迎える生活環境のアセスメントとケア ・新生児期の健康診査（1ヶ月健診） 発育・発達評価、保健指導の要点 ・新生児訪問指導</p> <p>第6・7回 正常な新生児経過からの逸脱およびハイリスク状態にある新生児のアセスメントと ハイリスク因子のアセスメント ハイリスク新生児とその家族へのケア ・生理学的適応を助ける援助の基本 ・低出生体重児へのケア ・治療を受ける新生児のケア 呼吸障害、黄疸などに対するケア、ディベロップメンタルケア など ・親・家族へのケア（児を中心とした家族への支援） ・ハイリスク児の主要な病態（胎児発育不全、呼吸窮迫症候群、新生児一過性多呼吸、 チアノーゼと心不全、病的黄疸、感染症、嘔吐や腹部膨満など）とケア ・新生児の急変時の対応 など</p> <p>第8回 乳幼児の経過とその援助 乳幼児の正常経過 ・身体的特徴、生理的特徴など 乳幼児の健康診査 ・健診に必要な技術 ・発育・発達評価・保健指導の要点 正常経過にある乳幼児およびその家族への援助 ・発達性を促進するケア（栄養、遊びなど） ・起こりやすい疾病の予防的ケア（予防接種など） ・家族へのケア（育児相談、母子相互関係・親子関係の確立・虐待防止） ・乳児期に起こりやすい疾患（SIDSなど） ハイリスク乳幼児およびその家族への援助</p>	<p>白井淳美</p> <p>白井淳美</p> <p>白井淳美</p> <p>白井淳美</p> <p>白井淳美</p> <p>白井淳美</p> <p>白井淳美</p>
科目の目的	<p>新生児・乳幼児の正常・異常の診断および援助ができるための知識・技術を養う。特に新生児の育児に必要な基本的技術・生活環境、ハイリスク新生児の救急時の母子および家族への対応について学ぶ。【知識・理解】 【思考・判断】 【技能・表現】</p>	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正常経過にある新生児の助産診断が説明できる。</li> <li>・新生児および、その家族への援助に必要な技術を説明できる。</li> <li>・ハイリスク新生児や正常を逸脱した新生児およびその家族に必要な援助を考察できる。</li> <li>・乳幼児の経過と、各時期に合わせた援助について理解することができる。</li> </ul>	
関連科目	<p>専門科目群：母性看護学総論、母性看護学Ⅰ、母性看護学Ⅱ、小児看護学Ⅰ（新生児期や乳幼児期、NICUに関連する内容）、公衆衛生看護学Ⅲ、基礎助産学Ⅱ、助産診断技術学Ⅰ、助産診断技術学Ⅲ、助産診断技術学Ⅵ</p>	
成績評価方法・基準	<p>定期試験（90％）、課題提出（10％）</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母性看護に関する既習の講義内容、公衆衛生看護学Ⅲ、小児看護学Ⅰの講義内容を復習しておくこと。</li> <li>・【準備学習に必要な時間の目安】各講義につき3時間45分の授業時間外における学習（予習・復習など自己学習）が必要となる。</li> </ul>	
教科書・参考書	<p>教科書：「助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期」，我部山キヨ子・武谷雄二（医学書</p>	

	院) 「助産師基礎教育テキスト 2019年版 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」遠藤敏子（日本看護協会出版会） 参考書：「助産師基礎教育テキスト 2019年版 第6巻 産褥期のケア 新生児期・乳幼児期のケア」，横尾京子（日本看護協会出版会） 「新生児学入門 第3版」，仁志田博司（医学書院） 「新生児ベーシックケア」，横尾京子（医学書院） その他、講義内で紹介する。
オフィス・アワー	講義開講日：講義前後、放課後
国家試験出題基準	【助産師】 ≪基礎助産学Ⅱ≫Ⅰ-7-A, B, C、Ⅰ-8-A, B, C ≪助産診断・技術学Ⅱ≫X-24-A, B、X-25-A, B、X-26-A, B, C、X-27-A, B, C、?-31-A, B, C, D, E、XIII-32-C、XIV-34-A, B ≪地域母子保健≫Ⅲ-4-B
履修条件・履修上の注意	助産師課程履修者のみ履修可能とする。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	2単位	選択
単位認定者	担当者		
中島久美子	臼井 淳美	竹中 恒久	遠藤 究

授業形態	講義2回・実技28回	担当者
授業計画	<p>第1-4回 妊娠期の技術 基礎助産技術（診察技術、援助技術） ・外計測、骨盤計測、聴診、内診、クスコ診（頸部スメア）、レオポルド触診法、子宮底・腹囲測定、ザイツ法他 ・妊娠期の助産ケア：シミュレーション学習（ロールプレイ、リフレクション）</p> <p>第5-6回 分娩期の技術 分娩介助の原理 ・分娩介助の総論（入院時の判断、第1期～分娩室入室の判断、準備、パルトグラム、他） ・正常分娩介助法の原理、間接介助の役割他 ・助産基本技術（導尿 無菌操作、ガウンテクニックなど） ・分娩介助準備（物品準備、清潔野、外陰部消毒）</p> <p>第7-10回 正常分娩の介助（1） 正常分娩介助法 ・分娩介助時の技術（肛門保護、人工破膜、会陰保護） ・分娩介助時の技術：児の娩出・児の処置（児頭娩出、顔面清拭、巻絡確認、肩甲娩出～体幹娩出、娩出時間・性別確認、出生児の呼吸助成、臍帯切断） ・胎盤の検査：胎盤娩出（胎盤精査、子宮収縮・軟産道精査、子宮底輪状マッサージ）</p> <p>第11-13回 正常分娩の介助（2） 新生児の助産技術 ・出生直後の観察・ケア・諸計測、成熟度評価、アプガールスコア、シルバーマンスコア ・新生児期の助産ケア：シミュレーション学習（ロールプレイ、リフレクション）</p> <p>第14回 分娩第1期のケア ・産痛と産痛緩和法、呼吸法・怒責法・腹圧、分娩促進・姿勢の工夫、ツボ刺激、マッサージ他</p> <p>第15・16回 分娩介助法の実際、分娩介助技術評価 ・分娩介助手順の説明、ビデオ学習 ・分娩介助評価法の解説</p> <p>第17・18回 分娩介助演習(1) ・分娩介助手順のデモンストレーション、分娩介助演習</p> <p>第19-21回 分娩介助演習(2) ・分娩介助演習：シミュレーション学習（ロールプレイ、リフレクション）</p> <p>第22・23回 産褥期の技術 乳房管理・乳房ケア ・退行性変化促進への援助、日常生活適応（マイナートラブル）への援助、等 ・乳汁分泌の機序、乳房診察、乳管開通法、乳房マッサージ、搾乳など ・産褥期の母乳育児支援：シミュレーション学習（ロールプレイ、リフレクション）</p> <p>第24回 分娩介助法の実際（フリースタイル） ・側臥位、座位、四つんばい、スクワット他</p> <p>第25・26回 超音波診断・胎児心拍数陣痛モニタリング 母体・胎児の健康診査に必要な検査の基礎知識診断、胎児心拍数陣痛モニタリングによる検査の実際、包括的な胎児の健康状態の評価</p> <p>第27回 止血法 基礎助産技術：緊急時の対応と応急処置（1） ・止血技術の実際（緊急時使用物品と薬剤、止血法、出血性・非出血性ショック時の処置、異常出血への対応）</p> <p>第28回 会陰切開・裂傷部縫合 基礎助産技術：緊急時の対応と応急処置（2） ・会陰切開と裂傷部の縫合の実際</p> <p>第29回 新生児蘇生 基礎助産技術：緊急時の対応と応急処置（3） ・新生児蘇生の実際</p> <p>第30回 分娩介助技術試験 ・分娩介助技術試験（直接介助）</p>	<p>中島久美子</p> <p>中島久美子</p> <p>中島久美子</p> <p>中島久美子</p> <p>臼井淳美</p> <p>中島久美子</p> <p>中島久美子</p> <p>中島久美子</p> <p>中島久美子</p> <p>中島久美子</p> <p>臼井淳美</p> <p>中島久美子</p> <p>遠藤究</p> <p>竹中恒久</p> <p>竹中恒久</p> <p>竹中恒久</p> <p>中島久美子</p>
科目の目的	<p>妊娠・分娩・産褥各期の女性と新生児の身体的・心理的・社会的状態の正常・異常の判断と、対象によりよい助産を提供するための基礎的実践能力を養う。 今後強化されるべき助産師の役割と機能に基づく高次の助産診断・技術法を理解し、ハイリスクや緊急時に対応できる能力を養う。 【技能・表現】</p>	
到達目標	<p>妊娠・分娩・産褥各期の女性と新生児の身体的・心理的・社会的状態の正常・異常の判断ができる。 正常分娩介助法の原理が理解でき、分娩介助技術が習得できる。 高次の助産診断・技術法により、ハイリスク妊産褥婦および新生児への対応が理解できる。</p>	

関連科目	母性看護学Ⅰ、Ⅱ、基礎助産学Ⅱ、基礎助産学Ⅲ、助産診断・技術学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅱ、助産診断・技術学Ⅲ、助産診断・技術学Ⅳ、助産診断・技術学Ⅴ
成績評価方法・基準	定期試験（50％）、実技試験（50％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習内容：基礎助産学及び助産診断・技術学の予習・復習。分娩介助技術と基礎看護技術の実技の習得。 助産診断・助産課程に関する演習課題。 準備学習時間の目安：1時間
教科書・参考書	教科書：「助産学講座6、助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期」我部山キヨ子・武谷雄二（医学書院） 「助産学講座7、助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期」我部山キヨ子・武谷雄二（医学書院） 「助産学講座8、助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児期・乳幼児期」我部山キヨ子・武谷雄二（医学書院） 「助産師基礎教育テキスト7、ハイリスク妊産褥婦新生児へのケア」遠藤俊子（日本看護協会出版会） 参考書：「正常分娩の助産術、トラブルへの対応と会陰裂傷縫合」進純郎・堀内成子（医学書院） 「助産外来の健診技術、根拠に基づく診察とセルフケア指導」進純郎・高木愛子（医学書院） その他、講義にて提示する
オフィス・アワー	講義開講日の昼休み（専任教員） 講義開講前後の休憩時間（非常勤講師）
国家試験出題基準	【助産師】 ≪助産診断技術学Ⅱ≫ I-2-A, B, IV-9, 10, VI-14, VII-15-E, 16-B-a, b, c, d, X-24-A
履修条件・履修上の注意	助産師課程履修者のみ履修可能とする

講義科目名称：助産管理

授業コード：2N117

英文科目名称：Midwifery Management

対象カリキュラム：25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	2単位	選択
単位認定者	担当者		
大井けい子	樋口美恵子	高橋美鈴	松浦 光子

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 助産管理の基本</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理の基本概念とプロセス</li> <li>・助産業務管理の過程</li> <li>・助産管理の概念：組織における助産師の役割と助産管理体制 助産業務管理の特性など</li> </ul> <p>第2回 病産院における助産業務管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助産業務管理の過程：管理目標の策定 業務の分析など</li> <li>・助産業務管理の方法：組織管理 書類管理 財務管理 業務の質管理など</li> </ul> <p>第3・4回 病産院における助産業務管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産科棟の管理：看護体制 継続的な援助システム</li> <li>・院内助産・院内助産院の管理：オープンシステム</li> <li>・外来の助産管理：助産外来 助産師外来 家族計画外来 女性外来</li> </ul> <p>第5・6回 関連法規と助産師の義務・責任</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関連法規：医療法 保健師看護師助産師法 医師法 母子保健法など</li> <li>・助産師の法的責任と義務：応召 出生証明書の交付 助産録の記載 届け出 守秘義務など</li> <li>・女性の支援に関わる関係法規</li> <li>・子どもの支援に関わる関係法規</li> <li>・助産師の法的義務</li> </ul> <p>第7-8回 周産期管理システムとリスクマネジメント および 周産期における連携・協働</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周産期管理システム</li> <li>・周産期医療事故とリスクマネジメント</li> <li>・チーム医療における連携</li> <li>・周産期医療体制 周産期医療におけるチーム医療他職種との連携・稼働 地域連携とオープンシステム</li> <li>*事例による講義展開</li> </ul> <p>第9・10回 助産業務と医療事故</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周産期における医療事故対策 (GW 発表)</li> <li>・助産業務における安全対策 (GW 発表)</li> <li>・災害対策と支援活動 (GW 発表)</li> </ul> <p>第11回 助産所における助産業務の管理・運営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助産所とは</li> <li>・助産所の管理に関する法規 (助産所の関係法規)</li> <li>・助産所の管理・運営：医療機関との連携 救急時の搬送と搬送基準など</li> <li>・助産所の経営</li> <li>・出張助産：自宅分娩における助産師の役割など</li> </ul> <p>第12・13回 助産業務の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助産業務管理の過程</li> <li>・助産業務管理の方法</li> <li>・産科棟の管理</li> <li>・院内助産 院内助産院の管理</li> <li>・外来の助産管理</li> <li>*事例等による講義の展開</li> </ul> <p>第14・15回 助産管理のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の助産管理のあり方・発表 (全体討議)</li> </ul>	<p>大井</p> <p>大井</p> <p>大井</p> <p>大井</p> <p>高橋</p> <p>大井</p> <p>松浦</p> <p>樋口</p> <p>大井</p>
科目の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助産管理の基本概念及び施設の形態に応じた助産の業務、人事管理、予算管理、情報管理の基本的考え方を学ぶ。</li> <li>・医療事故への助産師としての対応について学ぶ。</li> <li>・周産期医療システムの運用と関係機関との連携について学ぶ。【知識・理解】</li> </ul>	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助産が業務の管理、助産所の運営の基本について理解する。</li> <li>・周産期医療システムの運用と関係機関との連携について理解する。</li> <li>・周産期における医療安全の確保と医療事故への対応について理解する。</li> </ul>	
関連科目	基礎助産学 I 地域保健行政	
成績評価方法・基準	定期試験 (100%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>準備学習の内容：母性看護、助産ケアの既習講義の復習をして講義に臨むこと。 学習課題を持って講義に臨むこと。</p> <p>準備学習時間の目安：2時間</p>	

教科書・参考書	教科書 助産管理 (医学書院) 参考書 助産業務ガイドライン2014 (日本助産師会)
オフィス・アワー	大井：講義前後 樋口：講義前後 高橋：講義前後 松浦：講義前後
国家試験出題基準	《助産管理》-1-A. B. C. D. -2-A. B. -3-A. B. C. -4-A. B. C. D. -5-A. B. C.
履修条件・履修上の注意	助産師課程履修者のみ履修可能とする。

講義科目名称：在宅看護実習

授業コード：2N126

英文科目名称：Home Care Nursing Practicum

対象カリキュラム：25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
山野えり子	反町 真由		

授業形態	実習	担当者
授業計画	<p>在宅看護実習 オリエンテーション（山野・反町） 実習の目的、目標、実習方法、留意事項などに関する説明</p> <p>実習期間 平成31年4月15日～平成31年6月28日</p> <p>実習施設 訪問看護ステーション（山野・反町） ①ほたか訪問看護ステーション ②訪問看護ステーション ホームナース ③群馬県看護協会訪問看護ステーション富岡 ④群馬県看護協会訪問看護ステーション渋川 ⑤群馬県看護協会訪問看護ステーション粕川 ⑥群馬県看護協会訪問看護ステーション高崎 ⑦群馬県看護協会訪問看護ステーション前橋南 ⑧群馬県看護協会訪問看護ステーション ⑨広瀬訪問看護ステーションたんぼぼ ⑩訪問看護ステーションほほえみ ⑪富岡地域訪問看護ステーション</p> <p>学内実習（山野・反町） 方法：実習期間中の月曜日、金曜日にカンファレンスを実施し、実習目標の到達度の確認 体験の共有化 課題解決 看護技術復習 看護過程の展開を実施 実習のまとめ（山野・反町） 在宅看護実習評価 実習目標到達度評価 在宅看護過程の実践、在宅看護の目指すものについてレポート提出</p>	
科目の目的	<p>「知識・理解、思考・判断、技能・表現、関心・意欲、態度」 在宅療養者とその家族および療養環境を踏まえた療養者の生活を把握し、訪問看護の対象や訪問看護の場に応じた接遇ができ、在宅看護過程が展開できる。また、在宅療養支援システムの構築過程を学び、多職種連携の在り方やそれぞれの専門性、役割を学ぶ。</p>	
到達目標	<p>1. 在宅看護の対象となる療養者とその家族の療養生活の特徴が説明でき、対象者に応じた看護支援が説明できる。 2. 在宅療養の場における訪問看護の役割が説明できる。 3. 在宅療養者とその家族を対象とする看護過程が展開できる。 4. 訪問看護ステーションの機能・役割が説明できる。 5. 在宅療養支援システムの仕組みと多職種連携の実際を学び、それぞれの専門性や役割が説明できる。</p>	
関連科目	在宅看護概論、在宅看護論Ⅰ・Ⅱ、他教養科目群、専門基礎科目群、専門科目群のすべての科目	
成績評価方法・基準	在宅看護実習評価表（80%）、事前実習課題（10%）、実習レポート（10%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	在宅看護概論、在宅看護論Ⅰ・Ⅱで学習した内容を復習しておくこと。	
教科書・参考書	<p>教科書：「系統看護学講座 統合分野 在宅看護論」秋山正子（医学書院） 「ナースングラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア」</p> <p>参考書：「介護保険制度に関するパンフレット」（社会保険出版社） 「訪問看護サービス」（日本訪問看護振興財団） 「看護診断ハンドブック」（医学書院）</p>	
オフィス・アワー	専任：月曜日：12:10～13:00（山野研究室） 実習指導教員：実習施設内において随時	
国家試験出題基準	在宅看護概論、在宅看護論Ⅰ、在宅看護論Ⅱにわたるすべての項目	
履修条件・履修上の注意	在宅看護概論、在宅看護論Ⅰ・Ⅱ、他教養科目群、専門基礎科目群、専門科目群のすべての科目履修済みのものについて復習が必要である。	

講義科目名称：総合実習

授業コード：2N127

英文科目名称：General Practicum

対象カリキュラム：25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
上星 浩子	看護学科教員で担当		

授業形態	実習	担当者
授業計画	<p>実習期間：2週間（1週を臨地実習、1週を学内実習(事後学習)とする。）            実習時間：原則として8時30分～16時30分とする。            実習施設：1. 国立大学法人 群馬大学医学部附属病院            2. 独立行政法人 国立病院機構 渋川医療センター            3. 医療法人 日高会 日高病院</p> <p>病院実習の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1名もしくは複数の患者との関わりを通して、実習目標を達成する。               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 対象者の状態や状況に合わせた行動計画を立案し、看護を実践する。</li> <li>2) 他職種とのカンファレンスに参加し、情報の共有・継続看護について実践する。</li> </ol> </li> <li>チームアプローチの実際を知るため次のような実習を通して目標を達成する。               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護師同行実習(複数の患者を担当する場合の看護実践の学び)</li> <li>2) リーダーナース同行実習</li> <li>3) 看護管理者同行実習</li> <li>4) 認定看護師・専門看護師、チームでの活動への同行実習</li> <li>5) 外来見学実習</li> <li>6) 退院調整部門実習</li> </ol> </li> </ol> <p>学内実習の進め方</p> <p>実習記録・レポートを通して実習の振り返りを行い、看護専門職としての姿勢について考え実習目標を達成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学内での学習体験発表               <ul style="list-style-type: none"> <li>～2週目の学内実習の木曜日に「学習体験発表会」を予定している。各グループで発表内容を決め、資料作成をし手発表準備に備えること。当日の発表会では他のグループの発表に対して意見・質問・感想などを述べ、学びを深めること。</li> </ul> </li> <li>2. 実習での学びの確認と考察、記録類のまとめ</li> </ol>	
科目の目的	既習の知識や技術を統合し、ケア提供組織の中で展開されるチームアプローチを通して、総合的な看護実践能力を高める。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象者の特性や状況にあわせた計画的・継続的な看護を実践できる。</li> <li>2. 看護の質保障と安全管理のためのケア提供システムについて理解し、実践できる。</li> <li>3. 看護職間及び多職種間における協同・連携（チームアプローチ）の実践について理解できる。</li> <li>4. 看護専門職として質の高い看護を提供するための探求的姿勢を養うことができる。</li> </ol>	
関連科目	座学における既習科目、演習、臨床看護分野の実習すべて総合的に関連する	
成績評価方法・基準	自己評価（20％）、実習目標の達成状況（20％）、学習体験発表会への参加状況（20％）、実習後レポート①（20％）、実習後レポート②（20％）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	全体オリエンテーション及び施設別オリエンテーションに参加し、自身の目標を明確にする。事前学習として3時間の準備学習時間を要する。事前学習課題は、アクティブアカデミーでアップしているので、各自印刷して課題に取り組むこと。	
教科書・参考書	教科書：志自岐康子他（編） ナーシンググラフィカ基礎看護学①—看護概論、メディカ出版 参考書：上泉和子他著：系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践[1]. 医学書院。	
オフィス・アワー	担当教員が実習時間内（病棟実習、学内実習）に対応する。 詳細は施設別オリエンテーションで通知する。	
国家試験出題基準	基礎看護学：2-C 3-E, F 6-A, B, D 看護の統合と実践：1-A～E	
履修条件・履修上の注意	主体的に取り組むこと。1週目の病院実習では、群馬パース大学看護学科4年生としての自覚を持ち、礼節を持って実習にのぞむこと。2週目の学内実習ではグループ間で協力しあい、学習体験発表会の課題に取り組むこと。学習体験発表会では、他施設や他のグループの学びに耳を傾け、共有化することで自己の学びを広げていくこと。	

講義科目名称：公衆衛生看護学実習

授業コード：2N128

英文科目名称：Public Health Nursing Practicum

対象カリキュラム：25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	5単位	選択
単位認定者	担当者		
小林亜由美	矢島 正榮	廣田 幸子	桐生育恵

授業形態	実習	担当者
授業計画	<p>実習場所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 渋川・利根沼田・吾妻保健福祉事務所、前橋市保健所、管内市町村保健センター、高崎市立小学校・中学校、県内事業所</li> <li>・ 高崎市内小中学校</li> <li>・ 群馬県内事業所</li> </ul> <p>実習時期</p> <p>9月-12月</p> <p>実習内容</p> <p>実習施設を拠点とする公衆衛生看護活動に参加する。詳細は、実習要項に別途提示する。</p>	
科目の目的	公衆衛生の理念と目標を実現するために行われる、地域で生活する人々を対象とした看護活動の方法と看護の展開に必要な技術を学び、地域保健医療福祉における看護専門職の役割を理解する。【知識・理解、思考・判断、技能・表現、関心・意欲、態度】	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域で生活する個人・家族・集団の健康を守るための保健活動の展開方法を理解できる。</li> <li>2. 個人・家族・集団の健康課題の改善・解決に向けた支援技術を実施できる。</li> <li>3. 保健医療福祉システムを有効に機能させるための保健師の役割を学ぶ。</li> <li>4. 地域の健康危機管理の方法について理解できる。</li> <li>5. 産業保健における安全・衛生管理の方法と看護職の役割を理解できる。</li> <li>6. 学校保健における保健管理・保健教育の方法と養護教諭の役割を理解できる。</li> <li>7. 専門職として、また組織の一員としての役割と責任について説明できる。</li> </ol>	
関連科目	公衆衛生学、疫学、保健統計、社会福祉・社会保障制度論、地域保健行政、栄養学、歯科保健、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学Ⅰ、公衆衛生看護学Ⅱ、公衆衛生看護学Ⅲ、公衆衛生看護学Ⅳ、公衆衛生看護管理学	
成績評価方法・基準	口頭試問(50%)、レポート(50%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	実習施設に関する年間活動計画、保健事業計画、施設概要、事業実績等の資料を読み解く(6時間)。実習中に実施可能な看護技術を練習する(6時間)。翌日の実習プログラムを確認し、学びたいことを整理する(6時間)。	
教科書・参考書	なし	
オフィス・アワー	小林、廣田、桐生・・・実習期間外：月～金12:10～13:00 16:20～18:00、実習期間内：実習指導スケジュールにより変則的なため、研究室前に掲示する。矢島：月～金12:10～13:00 16:20～18:00	
国家試験出題基準	<p>保健師国家試験出題基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>《公衆衛生看護学概論》1～5</li> <li>《公衆衛生看護方法論Ⅰ》1～5</li> <li>《公衆衛生看護方法論Ⅱ》1～6</li> <li>《対象別公衆衛生看護活動論》1～8</li> <li>《学校保健・産業保健》1～4</li> <li>《健康危機管理》1～6</li> <li>《公衆衛生看護管理論》1～3</li> <li>《疫学》1～9 《保健統計》1～4</li> <li>《保健医療福祉行政論》1～7</li> </ul>	
履修条件・履修上の注意	保健師課程履修者のみ履修できる。	

講義科目名称：助産学実習

授業コード：2N129

英文科目名称：Actual practice midwifery

対象カリキュラム：25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	11単位	選択
単位認定者	担当者		
中島久美子	早川 有子	白井 淳美	

授業形態	実習	担当者
授業計画	<p>1. 助産学実習Ⅰ（9単位） 生理的な経過をとる妊産婦を対象に以下の実習を行う。 10例の分娩介助を行い、そのうち1例は妊娠期から産後1カ月までの期間を受け持つ。</p> <p>1) 妊娠期実習 2) 分娩介助・継続事例実習 3) 産褥期実習 4) 胎児・新生児・間接介助実習</p> <p>2. 助産学実習Ⅱ（1単位） ハイリスク状態にある妊産婦及び新生児を1例受け持ち、対象の健康状態を助産診断し、助産過程の展開を行う。</p> <p>3. 助産学実習Ⅲ（1単位） 地域の助産師の活動を見学、参加することで助産業務の特性と課題、今後の展望を考察する。</p>	<p>早川、中島、白井</p> <p>早川、中島、白井</p> <p>中島</p>
科目の目的	<p>周産期の母子と家族のケアに必要な助産診断・技術の基礎的能力、社会の特性を理解し母子と家族の健康を守る科学的思考能力を養う。また、助産師としての職業アイデンティティの形成を目指した知識・技術・態度を学ぶことを目指す。</p> <p>【知識・理解】 【思考・判断】 【技能・表現】 【関心・意欲】 【態度】</p>	
到達目標	<p>10例の正常分娩介助を通して、助産課程の展開、妊娠中期から産後1カ月の母子の継続した健康診査・ケアを行いその助産診断・技術を習得できる。</p> <p>1例のハイリスクの妊・産・褥婦を受け持ち、ハイリスクにあるケースの助産診断・技術を習得できる。</p> <p>助産所実習を通して、地域における助産・母子保健活動の実際を知り、助産師の役割を学ぶことができる。</p> <p>継続事例を通して、助産管理の初歩的実践能力を学ぶことができる。</p>	
関連科目	<p>基礎助産学Ⅰ、基礎助産学Ⅱ、基礎助産学Ⅲ、基礎助産学Ⅳ、助産診断技術学Ⅰ、助産診断技術学Ⅱ、助産診断技術学Ⅲ、助産診断技術学Ⅳ、助産診断技術学Ⅴ、助産診断技術学Ⅵ、公衆衛生看護学Ⅲ、助産管理</p>	
成績評価方法・基準	<p>実習内容、実習記録、実習態度、出席状況等により、助産実習担当教員全員の協議により総合的に評価する。詳細は実習要項に記載する。</p> <p>助産学実習Ⅰ（正常編、分娩介助10例、継続事例実習）：84点 助産学実習Ⅱ（異常編、ハイリスク事例実習）：8点 助産学実習Ⅲ（地域母子保健、助産院・母児保健センター実習）：8点</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>準備学習内容：助産師課程履修科目全ての学習した内容を復習しておくこと。分娩介助を含む助産ケアに係る技術は十分に演習しておくこと。助産所・助産管理に係る事前学習をして臨むこと。</p> <p>事前の演習練習、実習前・中・後の課題を含めて、83時間程度</p>	
教科書・参考書	<p>教科書：「助産学講座6、助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期」我部山キヨ子・武谷雄二（医学書院） 「助産学講座7、助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期」我部山キヨ子・武谷雄二（医学書院） 「助産学講座8、助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児期・乳幼児期」我部山キヨ子・武谷雄二（医学書院）</p> <p>参考書：助産師課程履修科目の前期講義にて提示した参考書に準ずる。</p>	
オフィス・アワー	<p>各担当教員が対応 実習オリエンテーションにて提示する。</p>	
国家試験出題基準	<p>【助産師】          ≪基礎助産学Ⅱ≫ 全般          ≪助産診断・技術学Ⅰ≫ 全般          ≪助産診断・技術学Ⅱ≫ I、II、IV、V、VI、VII、X、          ≪地域母子保健≫ III</p>	
履修条件・履修上の注意	<p>助産師課程履修者のみ履修可能とする。 4年次前期までに開講される全必須科目及び助産師課程履修科目の全ての単位認定を受けていることが履修条件となる。</p>	

講義科目名称：卒業研究

授業コード：2N131

英文科目名称：Nursing Research

対象カリキュラム：25年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4学年	4単位	選択
単位認定者	担当者		
中島久美子	卒業研究担当者全員		

授業形態	演習、ゼミ	担当者
授業計画	<p>第1回 領域別、指導教員別オリエンテーション</p> <p>第2-60回 リサーチクエスションの絞り込み、文献検索、研究計画立案、研究の実施、分析、<del>論議</del>指導教員の指導の下、研究計画を立て、実施し、その結果を論文として仕上げる。                      基礎看護学に関する研究：基礎看護学領域担当教員                      成人看護学（慢性期）に関する研究：成人看護学（慢性期）領域担当教員                      成人看護学（急性期）に関する研究：成人看護学（急性期）領域担当教員                      老年看護学に関する研究：老年看護学領域担当教員                      母性看護学に関する研究：母性看護学領域担当教員                      小児看護学に関する研究：小児看護学領域担当教員                      精神看護学に関する研究：精神看護学領域担当教員                      在宅看護学に関する研究：在宅看護学領域担当教員                      助産学に関する研究：助産学領域担当教員                      公衆衛生看護学に関する研究：公衆衛生看護学領域担当教員</p>	
科目の目的	看護学における研究課題を学生自ら主体的に探求することを通して、総合的な理解力を養う。看護学及びそれに関連する以下の領域から、学生自身が講義・演習・実習を通して興味をもったテーマを選定し、理論に基づき、教員の指導のもとで研究を計画・実施し、さらに、その結果を発表・論文化する。	
到達目標	各領域の指導教員のもと、自分の選定したテーマに従い研究計画を立て、実施し、その結果について論文を作成する。	
関連科目	看護研究概説、臨地実習など既習の科目全てと関連する。	
成績評価方法・基準	卒業研究に取り組む過程および論文作成の結果を総合し、指導教員が評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各指導教員の指導で研究を進めること。その際、自己が取り組む研究テーマについて積極的に文献等の情報収集を行い、研究計画書の作成、データ収集、データ分析、考察の作成を行う。指導教員や他の学生と積極的に意見交換し、多面的な思考ができるようにする。自己学習などに必要な時間は各学生で異なってくるため、研究の遂行にむけて計画を立てて取り組むようにする。	
教科書・参考書	<p>教科書 看護研究概説で用いた資料、教科書（看護における研究、南裕子、日本看護協会出版会）。</p> <p>参考書 1. 黒田裕子の看護研究step by Step、黒田裕子、医学書院 2. ひとりで学べる看護研究、山口瑞穂子、石川ふみよ、照林社 3. バーンズ&amp;グローブ 看護研究入門—実施・評価・活用—、ナンシー・バーンズ、スーザン・K・グローブ、エルゼビア・ジャパン など。 随時指導教員が紹介する。</p>	
オフィス・アワー	各指導教員と相談して時間を調整すること。	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	主体的に取り組むこと。指導教員とのやり取りはアポイントメントを取ったうえで、指導をうけること。研究上にて得られたデータの取り扱いや、データの入った記録媒体の取り扱いに注意すること。	